

講義名	エリア・スタディーズA						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121223000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 ヨーロッパの南に位置する「長靴の国」イタリアは、ローマ帝国や中世の都市国家が繁栄した古い歴史をもち、その歴史が色濃く残る景観は世界中の観光客をひきつけている。私たちにもなじみ深い国であるが、ニュースで取り上げられるヨーロッパの国はイギリスやドイツ、フランスが中心で、今のイタリアを知る機会意外にも少ない。この授業では、イタリアの現在の姿について、政治・経済・社会の観点から丁寧に学んでいく。この授業を通じ、長い歴史を経て成熟しつつも、さまざまな問題を抱えて奮闘する今日のイタリアを知ることになるだろう。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1-1【専門分野の知識・技能】、DP3-1【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)、DP4-1【表現力、発信力】を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①現代イタリアの政治を歴史とともに学び、それが抱える問題について理解する。 ②現代イタリアの経済構造を学び、経済におけるさまざまな課題について理解する。 ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 現代イタリアの政治① イタリア統一から現代まで— ・統一後、イタリアの政治機構が整備されてきた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 現代イタリアの政治② 政治のしくみ— ・イタリアの憲法や議会、直接民主主義について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 現代イタリアの政治③ 近年の政治の混迷— ・戦後の政治体制が崩壊したのちの政治の混迷について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 現代イタリアの経済① イタリア＝モデル— ・中小企業を中心とするイタリアの経済構造について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 現代イタリアの経済② 南北格差と地下経済— ・イタリア経済の問題である南北格差と地下経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 現代イタリアの経済③ EUとの関係— ・イタリアとEUとの関係および緊縮財政について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第III部 現代イタリアの社会① 移民、格差、社会保障— ・イタリアの社会が抱えるさまざまな問題について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 現代イタリアの社会② 家族のあり方— ・イタリアの特徴的な家族像およびその変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 現代イタリアの社会③ 人びとの暮らし— ・人びとの日々の生活について、さまざまな観点から学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①現代イタリアの政治を歴史とともに知っており、それが抱える問題について説明できる。 ②現代イタリアの経済構造を知っており、経済におけるさまざまな課題について説明できる。 ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。</p>
<p>〔テキスト〕 とくになし。</p>
<p>〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	エリア・スタディーズB						
教員名	清水 政行						
講義コード	121223100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、経済発展論的な視点から東アジア経済を分析し、その特徴を考察することによって東アジアの発展のダイナミズムに迫っていく。「なぜ東アジアは経済的に発展しているのか」をテーマに、そのメカニズムや要因を分析することで東アジア地域に対する経済的理解を深めることを目指す。授業では、テキストの流れに沿いながら各回のテーマを決めて、関連する箇所については参考書も参照しながら、具体的なデータや経済モデルを取り上げて学習を進める。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東アジア地域はどのように経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。 2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	なぜ東アジアなのか？ [参考書：ワイル（2010）1・2章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第2回	東アジアと経済成長 [テキスト：大野等（2024）1章] [参考書：大野・桜井（1997）1章] [参考書：ワイル（2010）3章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第3回	東アジアと人口問題 [参考書：ワイル（2010）4・5章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第4回	東アジアと直接投資 [テキスト：大野等（2024）2章] [参考書：大野・桜井（1997）2章] [参考書：ワイル（2010）8章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第5回	東アジアと自由貿易 [テキスト：大野等（2024）3章] [参考書：大野・桜井（1997）4章] [参考書：ワイル（2010）11章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第6回	東アジアと国際金融 [テキスト：大野等（2024）3章] [参考書：大野・桜井（1997）3章] [参考書：ワイル（2010）10章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第7回	東アジアと環境破壊 [テキスト：大野等（2024）4章] [参考書：大野・桜井（1997）5章] [参考書：ワイル（2010）16章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第8回	東アジアと開発政策 [テキスト：大野等（2024）5章] [参考書：大野・桜井（1997）6章] [参考書：ワイル（2010）14章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第9回	東アジアと政治体制 [テキスト：大野等（2024）5章] [参考書：大野・桜井（1997）7章] [参考書：ワイル（2010）12章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第10回	日本の経済発展 [テキスト：大野等（2024）6章] [参考書：大野・桜井（1997）8章] [参考書：ワイル（2010）6章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第11回	NIEsの経済発展 [テキスト：大野等（2024）8章] [参考書：大野・桜井（1997）9章] [参考書：ワイル（2010）7章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第12回	中国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）7章] [参考書：大野・桜井（1997）11章] [参考書：ワイル（2010）9章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第13回	ASEAN主要国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）9章] [参考書：大野・桜井（1997）10章] [参考書：ワイル（2010）15章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第14回	ASEAN後発国の経済発展 [テキスト：大野等（2024）10章] [参考書：ワイル（2010）13章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 小テストが実施された場合、採点後に授業の中でその解説を行う。また、学期末試験については、採点終了後に CoursePower からフィードバックを行う予定である。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 小テスト (30%)、学期末試験 (70%)。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。 1. 東アジア地域はどのように経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。 2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級ミクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。</p>
<p>〔テキスト〕 大野健一・桜井宏二郎・大橋英夫・伊藤恵子『新・東アジアの開発経済学』有斐閣 2024 年 (2,700 円＋税)</p>
<p>〔参考書〕 大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣 1997 年 (2,000 円＋税) ※購入の必要なし デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第 2 版』ピアソン桐原 2010 年 (4,000 円＋税) ※購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	文化と経済（欧米世界）						
教員名	志賀 俊介						
講義コード	121223200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ヒップ・ホップ、ロック、R&B…、今日私たちは様々なジャンルの音楽を聴いています。そのポピュラー音楽のルーツに思いをめぐらすとき、アメリカの音楽史を抜きにして考えることはできません。そしてそれは、アメリカの政治や経済、あるいはイデオロギーといった多様な要因が絡む社会的背景と切り離せないものです。本講義では、アメリカのポピュラー音楽の歴史を概観しながら、様々なジャンルの音楽がいかに時代の中で生まれたのか、あるいは時代を駆動させたのかについて考えます。たとえばそこには、アメリカが抱える奴隷制から始まる黒人差別の歴史から、黒人によって生み出されたとされるブルースの誕生が含まれるでしょう。一方で、本来「心の声」としての表現手段であった音楽の発展は、音楽ビジネスを含む資本主義経済と無縁ではいられず、それは経済大国アメリカの発展と密接に結びついています。音楽の発展と受容について、アメリカを中心としつつ、時にはそれ以外の国や地域との関連も視野に入れ、商業的側面と芸術的側面から考察します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>この講義のDPは以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DP 1（専門分野の知識・技能）：アメリカの歴史や音楽史を学ぶ。 ・DP 2（教養の習得）：アメリカの歴史や音楽史に関連する音楽や映像作品などに触れることで、経済などの社会背景と人々との関連について考察することができる。 ・DP 3（課題の発見と解決）：アメリカの歴史や音楽史に関する調査を行い、それらを分析し、自分なりの考えへと発展させることができる。 ・DP 4（表現力、発信力）：得た知識や自分の考えをまとめた上で、的確かつ明瞭に発信することができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）				準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション	【予習】シラバスを確認し、講義予定を把握する 【復習】授業内容を確認する				60分	
第2回	白と黒の境界を越えて：擬態の minstrel・ショー	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第3回	希望の歌としての宗教音楽：スピリチュアル、ゴスペル	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第4回	「哀しみ」の音楽：ブルースとその商業化	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第5回	狂騒の1920年代：アメリカの好景気とスウィング・ジャズ	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第6回	ホットからクールへ：ビ・バップ、モダン・ジャズ	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第7回	「若者」の音楽：大西洋を越えるロックンロール	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第8回	激動の時代の声：1960年代とフォーク	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第9回	多様性の時代へ：カウンター・カルチャーの興隆と挫折	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第10回	モータウンの勃興：ソウル、ファンク、R&B	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第11回	商業主義と反商業主義の狭間で：ロックンロールからロックへ	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第12回	ストリートからメイン・ストリームへ：ヒップ・ホップの隆盛	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第13回	エイジアン・インヴェイジョン：アメリカにおける K-POP の躍進	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す				60分	
第14回	まとめ	【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す／期末レポートを執筆する				60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的にはスライドを用いながら、講義形式で授業を行います（履修人数によってはディスカッションを取り入れます）。適宜、内容に合わせて音楽や映像作品を使います。毎回の授業について、CoursePower上で授業レポートを提出してもらい、学期末に合算して平常点に組み込みます。また、学期中に数回、授業内容についての確認を目的とした小テストを行います。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

授業レポートや期末レポートなどの課題のフィードバックは授業内もしくは CoursePower にて行います。

〔成績評価の方法〕

以下を総合して評価します。

- ・平常点（授業への参加状況、毎回の授業レポート）：40%
- ・小テスト：20%
- ・期末レポート：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。

「到達目標」に照らし合わせて評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

アメリカ史や音楽についての基本的な知識があることが望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

特にありません。

〔参考書〕

大田和俊之、『アメリカ音楽史——ミンストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』。講談社、2011 年。

バーダマン、ジェームス M. 『はじめてのアメリカ音楽史』。ちくま新書、2018 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	文化と経済（アジア世界）						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121223210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：絹織物という文化とその経済を考える この授業では、日本国内における絹織物をめぐる文化と経済を展開していきます。 単に、絹織物に関するある事象がいつ起こったのかという歴史だけにこだわるのではなく、絹織物産業の発展によってモノの流れがどのように変化し、社会にどのような影響を及ぼしていったのか、ライフスタイルがどのような変化を遂げたのか——に注目していきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①明治期の殖産興業であった製糸業の背景とその実態はどのようなものだったのかについて、明確に理解し、十分に他者に対し発信することができる。 ②絹織物の誕生が人間社会にどのような影響を及ぼしたのかを明確に分析し、理解し、提示することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	絹織物、生糸、製糸の起源／神話（1） ・絹織物、生糸、製糸の製造工程について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	絹織物、生糸、製糸の起源／神話（2） ・絹織物、蚕にまつわる神話について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	国内における養蚕業と桑栽培の推移 ・養蚕業と桑栽培の関連性とその生産推移について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	横浜開港と蚕糸業の発展（1） ・横浜港開港までの歴史を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	横浜開港と蚕糸業の発展（2） ・横浜港開港以降の蚕糸業との関連性、発展経緯を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（1） ・明治期の殖産興業の中心地としての富岡製糸場を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（2） ・海外技術者による製糸技術の伝播、国内独自の生産体制を編み出すまでの過程について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（3） ・世界遺産としての富岡製糸場および絹産業遺産群の価値について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響（1） ・世界恐慌によっていかに国内製糸業が打撃を受けたかについて解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	世界恐慌、他国の人絹工業からの影響（2） ・世界的にも質の高い製糸業の中心地であった富岡製糸場が、人絹工業によって浸食されていく過程を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	化学繊維、化学染料の発展 ・戦後、天然繊維である絹が下火になり、化学繊維と化学染料が発展していく過程を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・国内養蚕業・絹織物業のいまを解説する。 ・絹織物という文化と経済を考える。			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布資料などをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。</p>							

- ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
- ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕
特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕
翌週の授業の初めや Course Power 等で講評、解説を行う。

〔成績評価の方法〕
随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
・絹の歴史、文化に対する正確な理解。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。適宜指示をする。

〔参考書〕
特になし。適宜指示をする。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	Special Lectures on International Communications						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121223400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「日本を語るための国際的な教養を身につける」</p> <p>この授業は、日本人が外国人とコミュニケーションを円滑かつ深く行っていく場合に必要になる知識と教養を習得するためのものです。外国人とのコミュニケーションは、単に英語が上手く話せるということだけでは不十分です。表面的な日常会話のレベルを脱し、豊かな内容を相手に伝えていくためには、まず自分自身が興味を抱いて、その豊かな内容そのものを知らなければなりません。</p> <p>この授業では、外国人の関心の高い能楽や狂言や歌舞伎、アニメやKAWAIIというサブカルチャー、日本の美おもてなし文化、日本映画などについての深いコミュニケーションをとるための知識を、ゲストスピーカーとのオムニバス形式で解説をしていきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①「コミュニケーションのための国際的な教養力」の必要性を的確に理解する。</p> <p>②奥行きのある日本文化を理解して、他人に伝えることができる。</p> <p>③外国人に対し、日本文化、日本人の特性、外国人との文化的差異などについて、積極的に発信することができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 イントロダクション ・外国人との円滑なコミュニケーションのために必要なものは何かを説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】国際的な教養力について理解しておく。		60分	
第2回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（1）：歌舞伎 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第3回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（2）：能楽／狂言 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第4回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（3）：仏像 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第5回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（4）：日本の美 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第6回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（5）：古典文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第7回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（6）：現代文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第8回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（7）：サブカルチャー テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第9回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（8）：映画 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第10回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（9）：音楽 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第11回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（10）：アメリカ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第12回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（11）：アジア地域 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第13回	日本を語り世界を理解するための国際的な教養力（12）：日本食／おもてなし テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。			【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
第14回	総括 ・授業のまとめ ・キーワード、キー概念等を確認する。 ・期末レポート提出			【予習】これまでの授業で学んできた内容を振り返り、確認しておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60分	
〔授業の方法〕							

基本的に、配布資料などをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

翌週の授業の初めや Course Power 等で講評、解説を行う。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間課題レポート（25%）、最終期末レポート（55%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記到達目標の達成度を、客観的に評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。適宜紹介する。

〔参考書〕

特になし。適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	Special Lecture on Global Economy						
教員名	鈴木 史馬						
講義コード	121223500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>The economic agents that make up the global economy are households, firms, governments and a wide range of international and non-governmental organisations. This lecture focuses on economics as the basic framework for understanding the global economy.</p> <p>In particular, the course will explain macroeconomic theory at the elementary and intermediate levels. It is a basic framework for understanding national economies and their interactions.</p> <p>At the same time, it will explain how to apply the theory to the actual global economy. The aim is to provide a deeper understanding of the global economy by studying theory and practice.</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>In order to realise DP1, DP3, and DP4, the following objectives are to be achieved.</p> <p>This course aims to acquire a basic knowledge of the global economy.</p> <p>This course also aims to understand the movements and interactions of financial institutions and financial markets as discussed in daily news and newspaper reports.</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の 目安 (分)	
第1回	Guidance Explain the general outline of the lecture plan. Lecture 1. The science of macroeconomics: What Macroeconomists Study The global economy and macroeconomics			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第2回	Lecture 2. The Data of macroeconomics (1) Measuring the value of economic activity: GDP			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第3回	Lecture 3. The Data of macroeconomics (2) Measuring the Cost of Living: CPI / Measuring Joblessness: The unemployment rate			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第4回	Practice 1. Macroeconomic statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from Penn World Table.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第5回	Lecture 4. National Income: Where it comes from and where it goes (1) What determines the total production of goods and services?			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第6回	Lecture 5. National Income: Where it comes from and where it goes (2) How is National Income Distributed to the Factors of Production? What Determines the Demand for Goods and Services?			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第7回	Lecture 6. The Monetary System: What It Is and How It Works What is Money? / The Role of Banks in the Monetary System			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第8回	Lecture 7. Inflation: Its Causes, Effects, and Social Costs: The Quantity Theory of Money			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第9回	Practice 2. Financial statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from International Financial Statistics or other statistics.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第10回	Lecture 8. Economic Growth (1) The Accumulation of Capital			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第11回	Lecture 9. Economic Growth (2) The Golden Rule Level of Capital			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第12回	Lecture 10. Economic Growth (3) Population Growth and other extensions			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第13回	Practice 2. Calibrating global economic growth. Using RStudio to stimulate economic growth models.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
第14回	Review / in class examination.			Review this lesson and prepare for the next lesson.		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>In Lecture sessions, the instructor will explain the content of macroeconomics textbooks.</p> <p>In Practice sessions, students are required to bring their own PCs and analyse data.</p> <p>Quizzes and mini-reports will be given in both Lecture and Practice sessions.</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>[課題等へのフィードバック方法]</p>
<p>[成績評価の方法] 100% of the evaluation of each class (class participation (60%) and scores on quizzes and mini-reports (40)).</p>
<p>[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. Grading is also based on how well you have accomplished the objectives described above. Students will be assessed on whether they have understood the basics of macroeconomics through the quiz.</p>
<p>[必要な予備知識／先修科目／関連科目] マクロ経済学入門 1・2</p>
<p>[テキスト] Mankiw, G. (2019) Macroeconomics, Tenth Ed. ISBN 1319243584 (購入の必要なし)</p>
<p>[参考書] There are no reference books.</p>
<p>[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)] ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>[特記事項] (2)外国語のみで授業</p>

講義名	中級マイクロ経済学						
教員名	矢作 健						
講義コード	121343000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] 中級マイクロ経済学では1年次に履修した「初級マイクロ経済学Ⅰ/初級マイクロ経済学Ⅱ」の内容をもとに、マイクロ経済学の分析手法をさらに深く学んでいきます。まずは家計の消費行動から需要曲線、企業の生産行動から供給曲線を導出し、市場において価格が決定されていく過程を分析していきます。こうした市場メカニズムの社会的な望ましさや、それが成立している条件について改めて考えます。そして、こうした健全な市場が機能しない「市場の失敗」とよばれる状況についても紹介し、現実の社会を分析する枠組みを学んでいきたいと思えます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く ・完全競争市場での均衡を導出できる ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の進め方、概要の説明			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第2回	消費者行動（1）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第3回	消費者行動（2）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第4回	消費者行動（3）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第5回	消費者行動（4）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第6回	生産者行動（1）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第7回	生産者行動（2）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第8回	生産者行動（3）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第9回	生産者行動（4）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第10回	均衡分析（1）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第11回	均衡分析（2）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第12回	均衡分析（3）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第13回	均衡分析（4）			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
第14回	まとめ			予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習		60分	
<p>[授業の方法] 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学生の理解の到達度を確認するため、小テストまたは宿題や学期末試験を実施します。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
<p>[成績評価の方法] 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト30%、学期末試験70%で総合的に評価します。</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く
- ・完全競争市場での均衡を導出できる
- ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の科目を履修していることが望ましいです。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

- 『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 (ISBN 978-453557567)
『ミクロ経済学』 奥野正寛 東京大学出版会 (ISBN 978-4130421270)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	中級経済数学						
教員名	井上 潔司						
講義コード	121343200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 現代経済学科の学生が、更に進んで「経済数学の基礎知識」を修得することを目的とする。1年次にすでに学んだ初級経済数学の内容を前提とし、1変数関数の微分法に加え、多変数関数の微分法、ベクトル、行列の基礎事項を講義し、数学的諸概念の習熟を目指す。さらには講義で学んだ知識を活用し、経済学の様々な応用問題を解決できる能力の育成を目指す。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、(広い視野での思考・判断)、DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。 ・1変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・多変数関数の微分法の基礎概念の習得。 ・極値問題、最適化問題の考え方を学び、経済学に応用できる力を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・中級経済数学を学修する上での基本的な考え方を説明する。			【予習】学生への序文、テキストを熟読。		60分	
第2回	微分法の基礎 ・平均変化率・微分係数・導関数の定義について理解する。 ・接線の方程式の導出方法を学ぶ。			【予習】テキスト熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の定義を理解し、導関数の導出方法を修得しておく。		90分	
第3回	微分法の諸公式1 ・微分法の基礎公式(積の微分公式、商の微分公式、等)を理解する。 ・実例を通して微分公式の適用方法を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の諸公式(積の微分公式、商の微分公式、等)を修得しておく。		90分	
第4回	微分法の諸公式2 ・合成関数の微分法について学ぶ。 ・指数・対数関数の微分法を修得する。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】合成関数の微分法を修得しておくこと。		90分	
第5回	関数の増減と極大極小 ・導関数を用いた関数の増減の調べ方、極値の求め方を学ぶ。 ・導関数を用いた関数の凹凸の調べ方、変曲点の求め方を学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】第1次導関数、第2次導関数の利用方法について確認しておく		90分	
第6回	微分法を用いた応用問題 ・微分法を用いた様々な応用問題の考え方について学ぶ。 ・関数のグラフを用いて応用問題の解き方を修得する。			【予習】テキストを読み、微分法を用いた様々な応用問題を解いておく。 【復習】最大・最小問題の基本的な解き方について確認しておく。		90分	
第7回	2変数関数の微分法 ・2変数関数に関する基本事項・用語について学ぶ。 ・偏微分と全微分について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の微分法を習得する		90分	
第8回	2変数関数のグラフと極値 ・2変数関数にの扱い方について学ぶ。 ・2変数関数の極値問題に関する基本事項・用語について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、<まとめ>の内容を把握する。 【復習】2変数関数のグラフの概形を把握できるようにする。2変数関数の極値を求められるようにする。		90分	
第9回	最適化問題1 ・2変数関数の最大・最小問題 ・制約のない2変数関数の最適化問題について学ぶ。			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の最適化問題を理解する。2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90分	
第10回	最適化問題2 ・2変数関数の最大・最小問題 ・制約のある2変数関数の最適化問題について学ぶ。 ・ラグランジュ関数 ・ラグランジュの乗数法			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ラグランジュ関数を理解し、制約のある2変数関数の最適化問題を理解する。2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。		90分	
第11回	ベクトルの基礎 ・ベクトルの定義 ・ベクトルの演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ベクトルの基礎事項を理解し、諸演算を理解する。		90分	
第12回	ベクトルの応用 ・ベクトルの平面図形への応用 ・ベクトルの空間図形への応用			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】平面・空間問題への様々な応用方法を学ぶ。		90分	
第13回	行列とその応用 ・行列の定義 ・行列の演算			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】行列の基礎事項を理解し、諸問題への応用を学ぶ。		90分	
第14回	まとめ等 ・授業のまとめ ・学期末試験への諸注意			【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		60分	
〔授業の方法〕 講義と演習を並行して行う。							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

小テスト、課題レポートは授業時に講評し、解説します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や積極性、演習課題、確認テスト）40%
学期末試験 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ・微分法の諸概念を理解できているか。
- ・多変数関数の扱いを修得しているか
- ・多変数関数を用いて、さまざまな応用問題が解けるか。
- ・数学的手法を経済学へ応用できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

- ・初級経済数学
- ・高校数学 IA・IIB の知識があれば、理解の助けとなる。

〔テキスト〕

尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学』日本評論社 ISBN978-4-535-55659-1

〔参考書〕

特にないが、高校時代の教科書「数学 IA, IIB, III」が役立つ。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	中級計量経済学						
教員名	小此木 悟						
講義コード	121343300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、実証経済分析の基本ツールである回帰分析について、理論と実践の両面から学びます。授業では、各手法の理論的背景を説明したうえで、統計ソフトRを用いた演習を行い、学修したモデルを実データに適用する方法を身につけます。回帰分析には様々なモデルが存在しますが、本講義ではデータの特性と分析目的に応じて、適切な手法を選択できるようになることを目指します。そのため、推定的前提となる理論に対する理解を重視します。回帰分析の推定結果を因果関係として解釈するためには、一定の仮定が満たされている必要があります。仮定が満たされない場合、得られる関係は因果関係ではなく相関関係にとどまります。講義では、相関関係と因果関係の違いを明確にしたうえで、回帰分析を用いて因果効果を識別するための考え方と方法についても学びます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>①回帰分析の主要な手法の理論的背景を理解し、分析テーマと使用するデータに応じて適切な分析手法を選択できる。</p> <p>②実際のデータを用いてRによる回帰分析を実行できる。</p> <p>③Rで得られた推定結果を適切に解釈したうえでメカニズムについて考察し、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 授業のスケジュール、進め方、予習・復習の仕方および必要なPC環境について説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。 【復習】必要に応じて初級統計学IおよびIIの内容を復習しておく。		60分	
第2回	Rの導入と基本操作 RおよびRstudioのインストール、基本操作などを学修する。			【予習】テキスト『Rによる計量政治学』第4~6章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		90分	
第3回	単回帰分析と最小二乗法			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第4章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第4回	仮説検定と不均一分散			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第5章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第5回	重回帰分析の基礎			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第6章・第7章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		90分	
第6回	重回帰分析の応用			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第8章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第7回	第1回到達度確認テスト			【予習】第1回到達度確認テストの準備。 【復習】第1回到達度確認テストの結果を受けて、ここまでの学修内容を振り返る。		90分	
第8回	第1回到達度確認テストの解説 相関関係と因果関係			【予習】相関関係と因果関係の違いに関して、テキストや参考文献の当該箇所を調べておく。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第9回	パネルデータ分析			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第10章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第10回	操作変数法			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第12章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第11回	プロビットモデル・ロジットモデル			【予習】テキスト『入門計量経済学』の第11章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第12回	第2回到達度確認テスト			【予習】第2回到達度確認テストの準備。 【復習】第2回到達度確認テストの結果を受けて、ここまでの学修内容を振り返る。		90分	
第13回	第2回到達度確認テストの解説 統計分析と経済理論			【予習】統計学と計量経済学の違いについて、テキストや参考文献の当該箇所を調べておく。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第14回	今学期のまとめと発展的内容の紹介			【予習】ここまでの学修内容を振り返り、疑問点を整理する。 【復習】ここまでの学修内容を振り返り、発展的内容について関心のある内容を調べる。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、前半に理論の説明とRを用いた推定方法について説明し、後半に実際のデータを用いてRを使った演習課題に取り組む。 ・授業中に取り組んだ演習課題は提出する。 ・第13回終了時に、自由なテーマで実証分析を行うという内容のレポート課題を課す。 ・到達度確認テストでは、理論の内容や推定結果の解釈に関する知識を問う。 ・各回の演習課題、期末レポート、到達度確認テストなどを通して知識の定着を確認する。 							
<p>〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕</p> <p>RおよびRstudio(授業内で改めて指示します)。</p>							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

・到達度確認クイズは採点して返却し、解説を行います。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト (25%×2回)、期末レポート (20%)、平常点 (演習課題の提出) (30%) によって評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

到達目標の達成度により評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初級統計学 I・II の履修を前提とする。

〔テキスト〕

『R による計量政治学』、浅野正彦・矢内勇生、オーム社、3200 円、ISBN978-4-274-22313-6

『入門 計量経済学』、James H. Stock・Mark W. Watson 著 (宮尾龍蔵 訳)、共立出版、13000 円、ISBN978-4-320-11146-2

いずれも購入の必要なし。

〔参考書〕

『R による計量経済学 第 2 版』、秋山裕、オーム社、2800 円、ISBN978-4-274-22265-8

『R による実証分析 第 2 版 一回帰分析から因果分析へ』、星野匡郎・田中久稔・北川梨津、オーム社、3300 円、ISBN978-4-274-23002-8

『入門 実践する計量経済学』、藪友良、東洋経済新報社、3200 円、ISBN978-4-492-31550-7

いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(1) ICT 教育科目,(6) ICT 活用

講義名	ゲーム理論						
教員名	吉田 由寛						
講義コード	121351000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要] この授業では、現代経済学の理解にとって必須となっているゲーム理論を解説する。ゲーム理論の標準的な入門書を用いて、人々の利害が絡み合う状況をゲームとして捉え、人々が取るべき行動や社会の均衡状態を考察したい。また、ゲーム理論の応用として、寡占市場の分析を行う。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・実際の人間関係を抽象化してゲームとしてモデル化するというゲーム理論の方法論を理解する。 ・戦略形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。 ・展開形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／ゲーム理論とは何だろうか？ [Ch. 1]			当授業での注意点を把握する。／教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第2回	選択と意思決定 [Ch. 2]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第3回	戦略ゲーム [Ch. 3]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第4回	ナッシュ均衡点 [Ch. 4]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第5回	利害の対立と協力 [Ch. 5]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第6回	ダイナミックなゲーム：その1 [Ch. 6]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第7回	ダイナミックなゲーム：その2 [Ch. 6]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第8回	繰り返しゲーム [Ch. 7]			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第9回	寡占市場のゲーム理論による分析1			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第10回	寡占市場のゲーム理論による分析2			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第11回	不確実な相手とのゲーム：その1 [Ch. 8]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第12回	不確実な相手とのゲーム：その2 [Ch. 8]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第13回	進化ゲーム [Ch. 11]			教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。		120	
第14回	まとめと質疑応答			すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。		120	
<p>[授業の方法] 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法] 授業内で適宜指示する。また、SEIKEI PORTALのセルフレビューで講評を掲載する。</p>							
<p>[成績評価の方法] 授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条・第 39 条）に準拠し，到達目標への達成度を評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 各学科で開講されているマイクロ経済学と経済数学の内容を予備知識とする。</p>
<p>〔テキスト〕 教科書として以下を指定する。 ・岡田章『ゲーム理論・入門 -- 人間社会の理解のために（新版）』，有斐閣，2014 年</p>
<p>〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は授業終了後に教室で，またメールで受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	国際マクロ経済学						
教員名	鈴木 史馬						
講義コード	121351200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面 (Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance) と呼ばれる領域のテーマを扱います。マクロ経済学の標準的な理論を復習しながら、それを国際経済でのマクロ経済現象の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1 (専門分野の知識・技能)、DP3 (課題の発見と解決) を身に着けるために実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>1. マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。</p> <p>2. マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	国際マクロ経済学のオーバービュー			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第2回	為替レートの決定メカニズム (1) 購買力平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第3回	為替レートの決定メカニズム (2) 金利平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第4回	為替レートの決定メカニズム (3) データで見る購買力平価・金利平価の説明力			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第5回	日本企業の対外直接投資 (1) データで見る日本企業の対外直接投資			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第6回	日本企業の対外直接投資 (2) 生産性と対外直接投資のモデル			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第7回	日本企業の対外直接投資 (3) 生産性と対外直接投資のモデル (続き)			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第8回	日本企業の対外直接投資 (4) 生産性と直接投資			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第9回	国際的な資本移動と経済成長 (1) 閉鎖経済・長期のモデルの基本			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第10回	国際的な資本移動と経済成長 (1) 閉鎖経済・長期のモデルの応用			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第11回	国際的な資本移動と経済成長 (1) 小国開放経済・長期のモデル			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第12回	国際的な資本移動と経済成長 (1) 大国開放経済・長期のモデル			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第13回	国際的な資本移動と経済成長 (1) 経常収支の持続可能性			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第14回	授業のまとめ			これまでの授業内容をよく復習する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示 (特別なソフトウェアのインストール等)〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点 (毎回の提出課題等) (40%)で成績評価する。</p> <p>学期末試験を実施しない場合：平常点 (毎回の提出課題や授業内での試験等) (100%)で成績評価する。</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。 2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。 3. 発展的テーマへの考察ができる。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目：</p> <p>経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など 現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など 経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>適宜、指定する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>適宜指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	行動経済学						
教員名	内藤 朋枝						
講義コード	121351300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>伝統的な経済学において、人間は、他からの影響を受けず、全ての情報を用いて合理的意思決定が行われる存在（ホモエコノミカス）として仮定されている。一方、行動経済学においては、このような合理性から系統的にずれる「バイアス」が存在することが前提になっている。本講義では、行動経済学において整理されている、人間の意思決定における系統的なバイアスについて学修する。さらに、行動経済学的特性を用いて、金銭や、罰則付きの規制を使うことなく、人々の行動をよりよい（合理的な）ものに変えていく方法（ナッジ）について学ぶ。トピックは進度や状況に応じて変更することがある。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 行動経済学の原理を理解している。</p> <p>② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。</p> <p>③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 伝統的経済学にて前提とされる意思決定者の特徴と、行動経済学にて前提とされる意思決定者について学修する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		30	
第2回	合理性とはなにか 経済学という合理性について理解をふかめることで、これまで学んできた「古典的な」経済学と行動経済学との違いについて学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	時間選好1 人間は現在の楽しみを優先し、将来の計画を先延ばしにしてしまうことが分かっている。 ここでは現在バイアスという概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	時間選好2 引き続き現在バイアスという概念についていくつかの実例を見ながら学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	コミットメント 「時間非整合な意思決定」をどのように是正できるのかについて検討する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	プロスペクト理論1 行動経済学では不確実性のもと、意思決定を行う場合、客観的確率に従わないことが分かっている。そのような人間の行動メカニズムについて学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	プロスペクト理論2 ここでは、主に確実性効果、損失回避などの概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	ハロー効果 私たちの成功は運と努力どちらの効果がより大きいのだろうか。ハロー効果の概念の理解と共に検討する。※課題レポートについて説明する			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	ヒューリスティックス1 人々は決して全ての情報を最大限に活かして意思決定できるわけではない。 ここでは「直感的意思決定」の概念について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	ヒューリスティックス2 直感的意思決定に従う事でどのような社会的影響があるのか、について学修する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポート1の準備を行う。キーワードを説明できるようにする。		120	
第11回	社会的選好1 行動経済学において、人間は他者の物的・金銭的利得への関心を持つことが想定されている。 このような互恵性、利他性について学修する。 ※課題レポートを提出する			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	社会的選好2 社会的選好を用いて、男女格差や労働生産性にどのようにアプローチできるかについて検討する。			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第13回	ナッジ ナッジの概念について学修する。 どのような条件が揃えばナッジといえるのか実例を見ながら検討する。 ※到達度確認テストのガイダンスを行う			【予習】Course Power 上の資料を読む。日常の場面でナッジが使われていると考えられる現象を見つけてくる。 【復習】キーワードを説明できるようにする。到達度確認テストの準備を行う。		120	
第14回	総復習 到達度確認テスト 到達度を確認し、授業全体を復習する。			【予習】到達度確認テストの授業資料などで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		60	
[授業の方法]							

学生は、課題レポートを提出することを求められる。また、授業であつかったトピックについて修得できているかを到達度確認テストで確認する。上で示された準備学修の時間はあくまで目安であつて、各自の理解に応じて取り組むこと。状況に応じてトピックならびにスケジュールの調整がおこなわれることがある。

課題レポート1：授業内容の基本的な事項の理解を深め、自分の考えを整理する。

到達度確認テスト：行動経済学の基本的な概念の理解を確認し、人の行動や社会情勢を行動経済的観点から分析できるか確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

授業内に実施したレポート課題等について解説します。
また到達度確認テストをおこない、理解度を確認し復習します。

〔成績評価の方法〕

課題レポート、到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。課題レポート（35%）、到達度確認テスト（50%）、平常点（授業への参加状況など）（15%）による総合評価。
なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下の到達目標に着目し、その達成度により評価する。

- ① 行動経済学の原理を理解している。
- ② 行動経済学的視点とマイクロ経済学視点の違いを説明できる。
- ③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：マイクロ経済学、社会学、社会保障論 A、B など

〔テキスト〕

特になし
参考書をもとに作成した資料を配布する。

〔参考書〕

大竹文雄 『行動経済学の使い方』 岩波新書 820 円 I S B N : 978-4-00-431795-1
バデリー, ミシェル 『[エッセンシャル版] 行動経済学』 早川書房 1600 円 I S B N : 978-4-15-209794-1
セイラー, リチャード, サンスティーン, キヤス 『実践行動経済学—健康、富、幸福への聡明な選択』 日経 B P 社 2420 円 I S B N : 978-4-8222-4747-8
室岡健志 『行動経済学』 日本評論社 2500 円 I S B N : 978-4-535-54054-5
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	情報の経済学						
教員名	吉田 由寛						
講義コード	121351400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 当科目のキーワードは「情報」である。正しい情報を持たない（持てない）状態を「不確実性」という。また、情報を持つ者と持たない者が共存する状態を「情報の非対称性」という。 授業ではまず、不確実性が伴う世界において、人々がどのような行動基準を持っているのか、経済学における伝統的な理論を紹介する。次に、情報を獲得した者はそれをどのように利用するのかについて考察を与える。そして、情報の非対称性の下では、このような情報利用が資源配分上の非効率性を引き起こしてしまうことを詳細に説明する。 授業では、上記に加え、この分野（あるいは関連分野）の最新トピックスを紹介することにしたい。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 E19以前の学生はDP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、E20以降の学生はDP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・不確実性下での合理的行動を説明できる。 ・情報の非対称性によって引き起こる問題を理解する。 ・情報共有に関する問題を理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／期待効用理論1：基礎			当授業での注意点を把握する。／授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第2回	期待効用理論2：応用			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第3回	ゲーム理論の基礎1：戦略形ゲーム			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第4回	ゲーム理論の基礎2：展開形ゲーム			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第5回	情報の取得と活用1：情報集合			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第6回	情報の取得と活用2：ベイズの定理			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第7回	モラルハザード1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第8回	モラルハザード2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第9回	逆選択1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第10回	逆選択2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第11回	シグナリング1：導入			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第12回	シグナリング2：展開			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第13回	情報・知識の共有1：共有の難しさ			授業内容を復習し、練習問題を解く。		120	
第14回	情報・知識の共有2：安易な共有／まとめと質疑応答			授業内容を復習し、練習問題を解く。／すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。		120	
<p>〔授業の方法〕 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 授業内で適宜指示する。また、SEIKEI PORTALのセルフレビューで講評を掲載する。</p>							
〔成績評価の方法〕							

授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条・第 39 条）に準拠し、到達目標への達成度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

『ゲーム理論』が関連科目である。

〔テキスト〕

後日指定するか、テーマに応じて文献を配布する。

〔参考書〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は授業終了後に教室で、またメールで受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	経済発展論						
教員名	清水 政行						
講義コード	121351500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] 開発途上国では、“持続的”な経済発展が望まれており、それを実現するためには発展のメカニズムや発展に必要な政策について理解することが重要になる。本講義では、「どうすれば途上国の経済は発展するのか」をテーマに、アジア諸国の経験を参考にしながら経済発展論を学習し、開発経済学的な観点から発展戦略について理解を深めていく。授業では、テキストの流れに沿いながら各回のテーマを決めて、関連する箇所については参考書も参照しながら、具体的なデータや経済モデルを取り上げて学習を進める。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。 2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	経済発展論とは？ ：成長のアジアと停滞のアフリカ			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第2回	貧困のメカニズム ：発展を開始する以前の経済 [テキスト：渡辺（2010）1章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第3回	人口転換Ⅰ ：人口構造の変化と爆発的増加 [テキスト：渡辺（2010）2章] [参考書：ワイル（2010）4章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第4回	人口転換Ⅱ ：人口ボーナスと少子高齢化 [テキスト：渡辺（2010）3章] [参考書：ワイル（2010）5章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第5回	農業発展Ⅰ ：緑の革命と誘発的技術進歩 [テキスト：渡辺（2010）4章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第6回	農業発展Ⅱ ：農業開発と工業化とのつながり [参考書：ワイル（2010）7章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第7回	工業発展Ⅰ ：工業化のメカニズム [テキスト：渡辺（2010）5章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第8回	工業発展Ⅱ ：二重経済的發展 [テキスト：渡辺（2010）5章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第9回	工業化政策Ⅰ ：工業化の初期条件と輸入代替工業化 [テキスト：渡辺（2010）6章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第10回	工業化政策Ⅱ ：輸出志向工業化と海外直接投資 [テキスト：渡辺（2010）7章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第11回	技術伝播 ：経済成長の源泉 [参考書：ワイル（2010）8章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第12回	体制転換 ：中国の経験 [テキスト：渡辺（2010）8章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第13回	金融危機 ：グローバリゼーションの影響 [テキスト：渡辺（2010）10章・11章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第14回	環境問題 ：持続可能な発展 [参考書：ワイル（2010）15章・16章]			配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
<p>[授業の方法] 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法] コメントおよび小テストについては、授業の中でその回答および解説（採点后）を行う。また、学期末試験については、採点終了後に CoursePower からフィードバックを行う予定である。</p>							

<p>〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。 1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。 2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級マイクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。</p>
<p>〔テキスト〕 渡辺利夫『開発経済学入門 第 3 版』東洋経済新報社 2010 年（2,800 円＋税）</p>
<p>〔参考書〕 デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第 2 版』ピアソン桐原 2010 年（4,000 円＋税）※購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会学						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121351800	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 テーマ：「社会を考える 公と私」 この授業では、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していきます。特に、社会学の二大理論である「社会システム論」と「コミュニケーション論」双方の概念および理論の解説を丹念に行っていきます。 社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解があります。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」とりまく環境に少なからぬ負荷を与えています。 そうした現状を正確に把握するために、社会的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現状、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していきます。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 ①社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる。 ②自分が生きている社会の問題点の在処を知り、社会の中での自らの立ち位置を明確に他人に理解させることができる。 ③社会学理論を理解し、社会的考察をすることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	インTRODクシヨソ ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。 ・社会学の謎			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第2回	「社会」とは何か／その理論 ・社会学における社会理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているかを解説する。 ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（1） ・「無縁社会」の現状を解説する。 ・NHK「無縁社会キャンペーン」を考察する。 ・「無縁社会」批判を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（2） ・家族、職場、地域社会の抱える問題点を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	わたし探しのゆくえ ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をし続けなければならないのか、について解説する。 ・ジェンダー、セクシュアリティの観点からも考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	コミュニケーション不全は解決できるか ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。 ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	コミュニティの可能性 ・コミュニティは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニティ」という言葉が使われる現状を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	政治という非日常 ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。 ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	集団とネットワーク／メディアの可能性 ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。 ・メディアによって作り上げられる「理想の自分像」はないかどうかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	神話世界としての消費空間 ・みせびらかしの消費、消費の合理化から現代社会を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	マスメディアに踊らされる個性のゆくえ ・ミニマリズム、断捨離、ときめき片づけといった、作り上げられる流行に振り回されて個性は確立されるかについて考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第13回	社会学の必要性 ・社会の発展法則の解明、危機の時代にこそ対応できる社会学、社会秩序のあり方について考察する。	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第14回	総括 ・授業のまとめ ・キーワード、キー概念等を確認する。 ・到達度確認テスト	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、教科書、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 			
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p> <p>得になし。</p>			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>翌週の授業の初めや Course Power 等で講評、解説を行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会学理論の基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ・「社会と個人」「公と私」の相克に対する深い思考。 			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』、出口剛司、株式会社 KADOKAWA、1500円（税別） ISBN978-4-04-601990-5 教科書は書かれた順番通りには使用しない。</p>			
<p>〔参考書〕</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>			
<p>〔特記事項〕</p>			

講義名	基盤特殊講義（身近なゲーム理論）						
教員名	地主 遼史						
講義コード	121361000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] 本講義は様々な社会現象を簡易なゲーム理論モデルを用いて説明する。ゲーム理論とは「戦略的状況」における「合理的な意思決定」とその帰結を説明するための道具である。まずゲーム理論の伝統的な記述方法と解概念を説明する。その後、選挙や公共財、就職活動や談合など身近なゲーム理論の応用例を紹介する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP1【専門分野の知識・技能の習得】およびDP3【課題の発見と解決】を達成するため、以下を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できる。 ・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できる。 ・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できる。 ・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができる。 </p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション、戦略形ゲーム（と展開形ゲーム）、支配戦略、囚人のジレンマとパレート効率			予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認		90分	
第2回	ナッシュ均衡			復習：授業内容の確認		60分	
第3回	混合戦略とナッシュ均衡の存在			復習：授業内容の確認		60分	
第4回	進化動学			復習：授業内容の確認		60分	
第5回	企業の参入、バックワードインダクションと部分ゲーム完全均衡			復習：授業内容の確認		60分	
第6回	政府による介入が難しい状況（複数均衡と均衡の非存在）			復習：授業内容の確認		60分	
第7回	到達度確認テスト			復習：授業内容の確認		60分	
第8回	ベイズ学習と逆選択			復習：授業内容の確認		60分	
第9回	就職活動とベイズ完全均衡			復習：授業内容の確認		60分	
第10回	公共財の供給			復習：授業内容の確認		60分	
第11回	長期的関係			復習：授業内容の確認		60分	
第12回	契約			復習：授業内容の確認		60分	
第13回	学習			復習：授業内容の確認		60分	
第14回	組織の違い+市場経済と計画経済+学生からのリクエストされたお題			復習：授業内容の確認		60分	
<p>[授業の方法] 基本的に講義形式で進行する。上記計画は一つの例であり、学生の理解の進捗に応じて、適宜調整を行う。成蹊大学の学習支援システム（CoursePower）を利用して、宿題を提出してもらうことを予定している。 特にゲーム理論の応用例については、学生の反応の良かった部分は残しつつ、年によって（学生からの希望が被らない限り）毎年異なるものを採用したい。例えば、過去には組織の経済学や政治経済学を扱った。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法] 提出された宿題への解答を確認し、もし間違いの多い箇所があれば、その説明を行う。</p>							
[成績評価の方法]							

宿題 20%、到達度確認テスト 30%、期末試験 50%の重みで評価する。ただし、宿題 20%、期末試験 80%の重みの方が評価が高くなる場合、そちらを採用する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 具体的には以下の点を重点的に評価する。

- ・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できるか。
- ・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できるか。
- ・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できるか。
- ・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ゲーム理論関連の科目全般と関連が深い。

〔テキスト〕

以下テキスト及び参考書は全て購入の必要なし。

1. 『活かすゲーム理論』 浅古泰史、図齋大、森谷文利、有斐閣、2750 円、978-4-641-20005-0
2. 『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』 梶井厚志、松井彰彦、日本評論社、2530 円、978453555202-9

〔参考書〕

1. 『ミクロ経済学の力』 神取道宏、日本評論社、3520 円、9784535557567
3. 『ゲーム理論の見方・考え方』 岡田章、勁草書房、2750 円、978-4326550876
4. 『ゲーム理論〔第 3 版〕』 岡田章、有斐閣、4730 円、9784641165779
5. 『組織の経済学』 伊藤秀史、小林創、宮原泰之、有斐閣、3520 円、978-4-641-16550-2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	基盤特殊講義（積分の基礎と応用）						
教員名	井上 潔司						
講義コード	121361020	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 経済数理学科の学生が、経済学を深く理解するために必要となる「積分の基礎知識」を修得することを目的とする。 「経済数学Ⅰ」を学習した学生を想定し、高校で学んだ積分の基礎事項（数Ⅱ,Ⅲ）からはじめ、積分の応用までを講義する。 様々な積分計算方法に習熟し、様々な計量問題の考え方を体系的に学ぶ。 さらには、微分法の知識を利用し、微分積分融合問題を解決できる能力の育成を目指す。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】 を実現するため、以下を到達目標とする。 ・積分の基礎概念の習得。 ・積分の重要な手法（置換積分法、部分積分法の扱い等）の習得 ・基本的な微分方程式の解法の理解。 上記項目を学び、経済学に応用できる力を身につける。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回	第1回 ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・積分を学修する上での基本的な考え方を説明する。			【予習】学生への序文、テキストを熟読。		60分	
第2回	第2回 積分の基本概念 ・微分積分の基本定理 ・原始関数			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】積分法の定義を理解し、基礎事項の確認をしておく。		90分	
第3回	第3回 不定積分と定積分 ・不定積分の公式 ・定積分の性質			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】定積分・不定積分の基本計算を修得しておくこと。		90分	
第4回	部分積分法 ・部分積分の計算公式 ・不定積分 ・定積分			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】部分積分の計算方法を修得しておくこと。		90分	
第5回	置換積分 ・置換積分の計算公式 ・不定積分 ・定積分			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】置換積分の計算方法を修得しておくこと。		90分	
第6回	初等関数の積分1 ・有理関数・無理関数の積分 ・三角関数の積分			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】有理関数・無理関数・三角関数の積分方法を理解しておくこと。		90分	
第7回	初等関数の積分2 ・指数関数の積分 ・対数関数の積分			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】指数関数・対数関数の積分方法を理解しておくこと。		90分	
第8回	ここまでのまとめ（到達度確認テスト） ・第1回から第7回までの授業のまとめを行う。 ・第1回から第7回までの授業の理解度を確認するための試験を行う。			【予習】第1回から第7回までの授業の内容を十分に復習する。		90分	
第9回	到達度確認テストの解説・質疑応答 ・到達度確認テストの模範解答提示、解答解説を行う。			【復習】テストの解説を十分に復習する。		90分	
第10回	積分の応用 ・面積・体積・長さ			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】積分を用いた面積・体積・長さの計算方法を理解しておくこと。		90分	
第11回	積分の応用 ・極座標系における積分			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】極座標系における積分計算を理解しておくこと。		90分	
第12回	積分の応用 ・物理的問題 ・平面運動（移動距離・速度・加速度）			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】平面運動における物理量の関係を理解しておくこと。		90分	
第13回	積分の応用 ・微分方程式の諸概念 ・1階微分方程式を解く			【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】微分方程式の解法を理解しておくこと。		90分	
第14回	第14回 まとめ等 ・授業のまとめ ・学期末試験への諸注意			【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。		90分	
〔授業の方法〕 講義と演習を並行して行う。							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

小テスト、課題レポートは授業時に講評し、解説します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）25%
到達度確認テスト 25%
学期末試験 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・積分法の諸概念を理解できているか。
- ・積分法の基本公式を修得しているか
- ・積分法を用いて、さまざまな応用問題が解けるか。
- ・積分法を経済学へ応用できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

経済数学 I、経済数学 II、経済数学 III
高校数学 I・II・III の知識があれば、理解の助けとなる。

〔テキスト〕

『経済数学』
入谷純・加茂知幸
東洋経済新報社、2016 年
3080(税込)
を使用する。

〔参考書〕

特になが、高校時代の教科書「数学 I、II、III」が役立つ。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	基盤特殊講義（実験経済学入門）						
教員名	小此木 悟						
講義コード	121361030	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 実験経済学は、実験によって得られたデータを通じて、経済理論における仮定の検証や、理論から得られる予測や含意の実証を目的とする学問です。本講義では、ゲーム理論、情報の経済学、産業組織論、行動経済学など、様々な経済学の分野で発展させられてきた経済学の概念を、経済実験への参加を通じて学修してもらうことを目的としています。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ・講義の中で扱った経済学の概念を理解している。 ・講義中に実施した経済実験の内容を説明できる。 ・講義中に実施した経済実験と、その理論的背景とのつながりを理解している。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の進め方と注意事項について ・実験経済学とは？			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第2回	意思決定			【予習】テキストの第1章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第3回	相互作用する意思決定 1 ・調整ゲーム ・チキンゲーム ・展開形ゲーム ・ゼロ和ゲーム			【予習】テキストの第2章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第4回	相互作用する意思決定 2 ・繰り返しゲーム ・公共財ゲーム ・異時点間の意思決定			【予習】テキストの第3章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第5回	市場取引			【予習】テキストの第4章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第6回	市場の失敗と政府の役割			【予習】テキストの第5章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第7回	第1回到達度確認テスト			【予習】第1回到達度確認テストの準備。 【復習】第1回到達度確認テストの結果を受けて、ここまでの学修内容を振り返る。		90分	
第8回	不完全競争			【予習】テキストの第6章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第9回	情報の非対称性			【予習】テキストの第7章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第10回	比較優位と交易の利益			【予習】テキストの第8章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第11回	マーケット・デザイン			【予習】テキストの第9章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第12回	心理学と経済学の融合			【予習】テキストの第10章を確認する。 【復習】授業で扱った内容を復習しておく。		60分	
第13回	第2回到達度確認テスト			【予習】第2回到達度確認テストの準備。 【復習】第2回到達度確認テストの結果を受けて、ここまでの学修内容を振り返る。		90分	
第14回	今学期の授業のまとめと発展的内容の紹介			【予習】ここまでの学修内容を振り返り、疑問点を整理する。 【復習】ここまでの学修内容を振り返り、発展的内容について関心のある内容を調べる。		60分	
<p>〔授業の方法〕 ・授業中に提示した実験への参加を通じたアクティブラーニングで進める。まず経済実験に参加してもらい、その後、実験が経済理論でどのように表わされるかを解説する。 ・実験には oTree や Google Form を用いてオンラインで実施することを予定しているため、持参不要の指示がない限り、毎回ノート PC を持参すること。 ・授業計画や内容は、受講生の関心や授業の進捗によって変更する場合がある。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

授業中または CoursePower を通じて、到達度確認テストの解説等を適宜行う。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（20%×2回）および平常点（授業内で行う実験への参加等）（60%）によって評価する。授業中の発言や授業内容への協力も加点評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
到達目標の達成度により評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

・必要な予備知識や先修科目は特になし。
・本講義で扱う内容は、経済学の様々な理論を実験を通じて検証・実証することである。したがって、マイクロ経済学や応用経済学全般が関連科目として挙げられる。

〔テキスト〕

『実験から始める経済学の第一歩』、花木伸行・島田夏美、有斐閣、2100 円、ISBN978-4-641-15117-8
購入の必要なし。

〔参考書〕

『はじめての実験経済学 ―やさしくわかる意思決定の特徴―』、亀井憲樹、オーム社、3200 円、ISBN978-4-274-23285-5
『実験経済学・行動経済学 15 講』、和田良子、新世社、2700 円、ISBN978-4-88384-318-3
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング,(6)ICT活用

講義名	経済史の基礎<1>						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121411000	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 経済史の重要な課題の1つに、「人類はどのようにして生き延び、そして豊かになってきたか（もしくは豊かではなくなってきたか）」を解明することがある。近年、AI技術の進歩などを背景に「人類とは何か」という問題関心から人類が生き延びてきた歴史を壮大なスケールで物語る本や、今日の私たちの経済システムである資本主義経済の性質を問直すような本が、世界でも国内でも大きな関心を集めている。この授業では、こうした近年の問題関心についてできるだけわかりやすく、要点をおさえて紹介していく。これにより、受講生にはより深く、柔軟に「人類の経済」について考えられるようになってほしい。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて理解する。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて理解する。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか① 寒冷化と初期人類の出現— ・地球の寒冷化とともに初期人類が出現したことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか② 人類の出現と脳容量の増大— ・人類が過酷な環境にあわせて脳容量を増大させたことについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 人類はどのように生き延びてきたか③ 地球に拡散する現生人類— ・現生人類がきわめて過酷な環境を生き延びた状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか① ダイヤモンド『銃・病原菌・轍』— ・ダイヤモンドの著書を紹介し、農耕牧畜の重要性について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか② ノア=ハラリ『サピエンス全史』— ・ノア=ハラリの著書を紹介し、彼の文明史観について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 人間はどのように豊かになってきたか③ 人間は本当に豊かになったのか?— ・2つの著書から、人間にとっての「豊かさ」について考える。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートを作成する。		120	
第10回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか① 古典的な解釈— ・マルクスやヴェーバーによる古典的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか② ブローデルとウォーラステイン— ・複数の経済圏を設定する巨視的な解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか③ アジアからの視点— ・資本主義形成のプロセスをアジアからの視点でとらえる解釈について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 【注意】昨年度と異なり、対面で実施します。 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて説明できる。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて説明できる。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」</p>
<p>〔テキスト〕 とくになし。</p>
<p>〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会思想史						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121411400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「経済学と人間性」</p> <p>個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとして捉えられてきたのか。それは合理性に裏打ちされた人間の行為だけによるものだと考えられてきたのだろうか。それとも、もっと多様性をそなえた、自然と人間との関係性をも含めたものだと、考えられてきたのだろうか。</p> <p>この授業では、経済を人間性とともに論じた経済学者や社会学者の思想、彼らを取りまく思想の歴史、時代背景などの考察・解説を行う。可能な限り翻訳された原典も参照しながら、思想家たちの生の主張を考察していく予定である。</p> <p>授業では、古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかをも追求して行く予定である。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①経済学の基盤となる思想にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できる (DP1、DP2)。</p> <p>②功利主義や合理主義などに拠らない経済学者や社会学者、功利主義や合理主義に拠る経済学者や社会学者の発想的に理解し、今日における課題との関連性を把握し、解決策を探ることができる (DP3)。</p> <p>③先人のたちの思想を踏まえ、現代社会を深く理解し、自分独自の社会思想観を他者に発信することができる (DP4)。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・現代社会理解に対する社会思想史や経済思想史の貢献を解説する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像を把握する。		60	
第2回	経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで (1) ・マンデヴィル『蜂の寓話』から経済行為と人間性との関連性を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで (2) ・アダム・スミス『国富論』、『道徳感情論』を通し、利己心をもつとされる人間の経済行為の理論を解説する。 ・経済思想が西欧近代社会の中で確立した時点の時代背景を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	功利主義思想の誕生 ・ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』から、功利主義思想を解説する。 ・効用の最大化は、現代社会ではどのように理解されているのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	資本主義経済の隆盛と人口問題 (1) ・マルサス『人口の原理』から、資本主義を確立したイギリスで起こった人口問題について解説する。 ・人間と自然との関係性から人口問題を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	資本主義経済の隆盛と人口問題 (2) ・近代経済学を確立したリカードの思想を解説する。 ・リカードとマルサスによる穀物法論争から、国民の人間性や徳、国防の問題を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性 (1) ・19世紀になぜ社会学が誕生したのかについて、理論的な背景を探る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性 (2) ・スペンサー『社会学原理』、『人間対国家』から、資本主義の陰で疲弊していった人間性について解説する。 ・スペンサー思想から現代社会の環境問題の根幹部分を見る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	資本主義の精神、倫理、合理性 (1) ・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が思想として確立されるまでの背景として、ロック、カント、新カント派の思想を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	資本主義の精神、倫理、合理性 (2) ・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から、西欧近代の資本主義の原動力となったものを解説する。 ・ヴェーバーの理解社会学を通し、人間の内面から社会的行為を展開した理論を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	社会病理からみる社会と人間性 ・デュルケム『自殺論』から、社会病理が増加しはじめた近代社会と人間の相克を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	職人気質を喪失した社会と消費行動の変容 ・ヴェブレン『有閑階級の理論』を通し、消費文化や人間の消費行動の本質を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第14回	総括 ・授業のまとめ ・到達度確認テストの解説	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】これまでに学んだキーワード、キー概念を整理し、到達度確認テストに向けての準備を行う。	120
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。			
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕 特になし。			
〔課題等へのフィードバック方法〕 翌週の授業の初めや Course Power 等で講評、解説を行う。			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ・経済思想の基盤となる思想の理解。 ・先人達の思想を通して、現代社会を見通す深い理解力。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 授業で適宜指示をする。			
〔参考書〕 授業で適宜指示をする。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。			
〔特記事項〕			

講義名	西洋経済史A						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121413200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである資本主義経済の基盤は、ヨーロッパにおいて長い時間をかけて形成されてきた。つまり資本主義経済の特徴を深く理解するためには、ヨーロッパ経済の歴史を学ぶが必要になる。そこでこの授業では、古代ギリシア・ローマから中世ヨーロッパ、そして近世イギリスやオランダへといったヨーロッパ経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、ヨーロッパにおける経済の歴史を、その背景もふくめて理解する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを理解する。 ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを理解する。 ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立① 古代地中海世界の成立と崩壊— ・古代ギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立② 中世ヨーロッパ世界の成立— ・中世封建社会の成立について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 ヨーロッパ経済圏の成立③ 「商業の復活」と中世都市— ・11世紀以降におけるヨーロッパ経済の発展について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編① 封建社会の動揺— ・14世紀半ば以降における危機や変化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編② ルネサンスとヨーロッパ経済— ・イタリア商人の活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 ヨーロッパ経済圏の再編③ 大航海時代とヨーロッパの拡大— ・大航海時代の背景および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展① オランダの躍進と衰退— ・近世オランダの経済構造について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展② イギリスの重商主義と市民革命— ・イギリス絶対王政や議会による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 ヨーロッパ経済圏の発展③ フランスの重商主義と市民革命— ・フランス絶対王政による重商主義政策について理解する。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。

〔成績評価の方法〕

中間レポート (20%)、期末レポート (40%)、小テスト (授業内課題) (40%) による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを説明できる。
- ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを説明できる。
- ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	西洋経済史B						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121413300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである資本主義経済は、近世までにヨーロッパで形成された基盤の上に、産業革命以降の工業化を経て完成された。資本主義経済を理解するために、この工業化の歴史を学ぶことは不可欠である。そこでこの授業では、産業革命以降のヨーロッパ（とりわけイギリス・ドイツ）およびアメリカの経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていきたい。それにより、近現代における欧米の工業化の歴史を、その背景もふくめて理解する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを理解する。 ②19世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを理解する。 ③2度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 産業革命による工業化① イギリス産業革命— ・イギリス産業革命の過程および結果について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 産業革命による工業化② ドイツおよびアメリカの工業化— ・特徴あるドイツとアメリカの工業化について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 産業革命による工業化③ 「パクス・ブリタニカ」の時代— ・19世紀半ばにおけるイギリス経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 産業構造の転換① 第2次産業革命— ・第2次産業革命における技術革新について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 産業構造の転換② ドイツ経済の発展— ・重工業を中心に独占が進んだドイツ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 産業構造の転換③ アメリカ経済の発展— ・国内市場と結び付いて発展したアメリカ経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第III部 現代の欧米経済① 第1次世界大戦後の復興— ・大戦後におけるアメリカを中心とする復興について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 現代の欧米経済② 世界恐慌後の経済— ・世界恐慌後における各国の対応について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 現代の欧米経済③ 第2次大戦後の欧米経済— ・今日にいたるまでの欧米経済の歩みについて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第1部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。

〔成績評価の方法〕

中間レポート (20%)、期末レポート (40%)、小テスト (授業内課題) (40%) による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを説明できる。
- ②19 世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを説明できる。
- ③2 度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	比較経済史						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121413400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 人類がこれまでどのように生き延びてきたのかを解明することは、経済史の重要な課題の1つである。これを解明するために、ある特定の時代や地域の経済システムを観察する方法もあるが、それぞれ特徴をもついくつかの経済システムを比較することで、それらのシステムをよりよく理解できることもある。この授業では、全体を3つのパートに分け、各パートで複数の経済システムの比較を行っていく。これにより、どのような経済システムも、その背景にあるさまざまな状況からの影響を受けながら形成されていったことを理解する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて理解する。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて理解する。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活① 狩猟採集民の世界― ・人類が長いあいだ続けた狩猟採集生活について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活② グラヴェット文化― ・寒冷地で開花したグラヴェット文化の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活③ 農耕牧畜の開始― ・農耕牧畜が人類の生活に与えた影響について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成する。		120	
第6回	第II部 古代オリエント世界の諸経済① 農耕の開始とメソポタミア文明― ・農耕の開始とともに形成されたメソポタミア文明について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 古代オリエント世界の諸経済② 地中海世界における興亡― ・地中海世界で展開されたさまざまな経済活動について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 古代オリエント世界の諸経済③ 古代ギリシアおよびローマ― ・オリエント世界から影響を受けて形成されたギリシア・ローマの経済について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートの準備を進める。		120	
第10回	第III部 ヨーロッパとイスラーム① ヨーロッパ経済圏の形成― ・中世に形成されたヨーロッパ経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 ヨーロッパとイスラーム② イスラーム経済圏の形成― ・中世に形成されたイスラーム経済圏の特徴について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 ヨーロッパとイスラーム③ 「ヨーロッパの成長」をめぐって― ・ヨーロッパ成長の原因についてイスラームと比較しつつ学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・小レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて説明できる。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて説明できる。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「地域経済史」</p>
<p>〔テキスト〕 とくになし。</p>
<p>〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	地域経済史						
教員名	鴨野 洋一郎						
講義コード	121413500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 今日の私たちの経済システムである近代資本主義経済を理解するためには、その基盤となったヨーロッパ経済の歴史を理解することが欠かせない。この歴史に かんして、とりわけおよそ千年間続いた中世という時代において、その後のヨーロッパの拡大を決定づける重要な変革が生じたことは強調すべきである。この時 代に「ヨーロッパ経済」という1つの特徴ある「地域経済」のシステムが形成されたのである。この授業では、おもにA. ビレンヌの概説書に依拠しつつ、中世 ヨーロッパ経済について農業・商業・工業・貿易・都市経済などのさまざまな観点から丁寧に学んでいく。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP2-1【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について理解する。 ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について理解する。 ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について理解する。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の 目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明 する。			【復習】授業の流れをイメージできるようにする。		60	
第2回	第I部 商業の衰退から復活へ① 中世初期のヨーロッパ経済― ・中世初期にヨーロッパ経済が縮小した状況について学 ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第3回	第I部 商業の衰退から復活へ② 「商業の復活」― ・11世紀ごろからヨーロッパで遠隔地商業が活発化した 状況について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第4回	第I部 商業の衰退から復活へ③ 都市と農村の生活― ・中世ヨーロッパの都市および農村における生活につ いて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第5回	第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・中間レポートについて理解する。			【復習】第I部の内容をまとめ、中間レポートを作成す る。		120	
第6回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済① 大市と信用のしくみ― ・中世ヨーロッパに特徴的な大市とそこで発達した信用 について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第7回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済② 遠隔地商業の隆盛― ・地中海および北ヨーロッパで発達した遠隔地商業につ いて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第8回	第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済③ 都市における経済活動― ・中世ヨーロッパ都市の経済活動について、工業を中心 に学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第9回	第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。			【復習】第II部の内容をまとめ、期末レポートの準備を 進める。		120	
第10回	第III部 変化する中世ヨーロッパ経済① ヨーロッパ全体を襲う危機― ・黒死病などの大きな危機に襲われたヨーロッパ経済に ついて学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第11回	第III部 変化する中世ヨーロッパ経済② 都市の政策と大商人の活動― ・危機を経て、都市および商業のあり方が変化する状況 について学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第12回	第III部 変化する中世ヨーロッパ③ ルネサンス期のヨーロッパ経済― ・成熟するヨーロッパ経済とその近世への影響について 学ぶ。			【復習】授業内容をノートにまとめる。		60	
第13回	第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。			【復習】第III部の内容をまとめる。		60	
第14回	授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。			【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを完成 させる。		120	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分 け、第I部の終了後に中間レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。また授業内課題として小テストを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・中間レポート：第I部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 中間レポートについては、授業のなかで全体的な講評を行う。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 中間レポート（20%）、期末レポート（40%）、小テスト（授業内課題）（40%）による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について説明できる。 ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について説明できる。 ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について説明できる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」</p>
<p>〔テキスト〕 とくになし。</p>
<p>〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会史						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121413600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ:「美意識の社会史」</p> <p>この授業では、日本人の美意識をめぐる社会史を展開していく。</p> <p>室町時代～現代にかけて、目には見えない美意識が、どのように日本の芸術、文化、生活の中で育まれていったのか、また、そうした美意識から日本の社会がどのように見え理解されるのか、さらにその美意識によってどのような影響を受けることになったのか、さらにはこうした日本人の美意識が海外ではどのように理解されているのかについて深く考察していく。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>①社会史の観点から、国内外で論じられる日本人の美意識にはどのようなものがあるかを理解し、説明できる(DP1、DP2)。</p> <p>②現代社会の中で日本人の美意識はどのように変化・変遷しているのかについて、独自の考えを表現し、発信することができる(DP4)。</p> <p>③日本人論や日本文化論に関心をもち、世界における日本人の文化的あり方についての課題を発見し、解決策を探ることができる(DP3)。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。		60	
第2回	「わび」と「さび」(1) ・「わび」と「さび」の美意識が生まれてきた時代背景を解説する。 ・「わび」と「さび」の本質は何かについて解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	「わび」と「さび」(2) ・岡倉天心『茶の本』を解説し、「わび」と「さび」をさらに追究する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	「花」の美学(1) ・世阿弥『風姿花伝』の誕生した時代背景について解説をする。 ・「秘すれば花」とは何かを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	「花」の美学(2) ・能「弱法師」から「花」を考える。 ・小林秀雄『無常という事』における「花」を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	「花」の美学(3) ・白洲正子『世阿弥』から、世阿弥と「花」の関係性を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	民藝運動(1) ・柳宗悦『民藝とは何か』から、民藝のもつ美、民藝を追求しなければならなかった時代背景について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	民藝運動(2) ・柳宗悦の興した民藝運動がどのように変化していったのかを、白洲正子の言説から読み解いていく。 ・民藝運動の意義について解説をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	白洲正子の美意識(1) ・『かくれ里』が世に問うている問題を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	白洲正子の美意識(2) ・『十一面観音巡礼』で展開された美意識を解説する。 ・白洲正子の現代的意義を解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	外国人からみた日本人の美意識(1) ・アレックス・カー『美しき日本の残像』から、日本人の美意識を外国人の目で確認をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	外国人からみた日本人の美意識(2) ・ドナルド・キーン・司馬遼太郎『日本人と日本文化』から、日本人の美意識と日本人と外国人の目から確認をする。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・日本人の美意識についてのまとめを行う。			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
<p>[授業の方法]</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。</p> <p>随時授業の中で、与えられた課題に対する解答/コメントを作成する。</p> <p>上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。</p> <p>なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。</p>							

- ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
- ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
- ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

翌週の授業やポータルで解説する。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（30%）、到達度確認テスト（55%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。
- ・日本人の美意識に対する深い思考。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。適宜指示をする。

〔参考書〕

挾本佳代『白洲正子——ひたすら確かなものが見たい』、平凡社、2013年。

購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	総合特殊講義（家族関係と法）						
教員名	渡邊 知行						
講義コード	121413700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>『家族関係と相続に関わる法律と判例』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族関係と相続に関する民法の基本的な制度とルールを理解し、具体的な相続紛争の事例をどのように解決すべきかを考察する。 							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力・発信力】を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。</p> <p>②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方 ・家族法（親族法・相続法）の基礎			授業内容の確認。		60分	
第2回	家族関係（1） ・婚姻 ・離婚 ・事実婚・内縁			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	家族関係（2） ・嫡出子・婚外子 ・普通養子・特別養子			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	家族関係（3） ・親権の内容 ・親権の制限 ・離婚後の子の親権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	家族関係（4） ・未成年者の後見 ・成年後見制度 ・扶養			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	法定相続（1） ・相続人 ・相続の承認・放棄			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	法定相続（2） ・相続財産 ・不動産の相続・相続登記 ・預貯金の相続 ・配偶者居住権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	法定相続（3） ・相続分 ・遺産分割			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	遺言相続（1） ・遺言の自由 ・遺言の方式 ・遺言の解釈			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	遺言相続（2） ・遺贈 ・遺言の執行			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	遺言相続（3） ・遺留分制度 ・遺留分の清算			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	相続に関する紛争事例（1） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第13回	相続に関する紛争事例（2） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第14回	授業で学習した内容の全体をまとめるとともに、今後の法改正の課題を検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・第12回、13回の授業では、相続に関する紛争事例として主要な判例の事案を取り上げて、その事案や関連事案をどのように解決するかを検討する。授業のなかで受講者の意見を聞く。 ・レポート課題（中間レポート2回と期末レポート）を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。 							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題については、授業中に講評・解説するとともに、解答例を CoursePower に掲示する。 ・期末レポート課題については、解答例と解説を CoursePower に掲示する。
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題(40%)、期末レポート課題 (60%)。
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準(学則第 38 条、39 条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の 2 点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。</p> <p>②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『民法 7 家族』 山本敬三監修、有斐閣、2530 円、ISBN : 9784641151154
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『民法 VI 親族・相続(第 8 版)』前田陽一・本山敦・浦野由紀子著、有斐閣、2900 円、ISBN : 9784641179615 「購入の必要なし」
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	総合特殊講義（社会哲学入門）						
教員名	岩城 志紀						
講義コード	121413720	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期

〔テーマ・概要〕

人は社会を形成し、大勢の他者と直接的・間接的に関わり合いながら生きています。例えば家族や友人との繋がり、国家を共有する他の国民との繋がり、さらには世界経済を通じた地球規模の繋がり。そういった様々な関係性の中で、人は生きています。

人が他者と平和的な共存関係を築いていくためには、人や社会にまつわる根本的な問いに立ち返り、一定の考え方を共有しておく必要があるでしょう。例えば・・・

- ・ なぜ国民は政府の決定に従わなければならないのか。
- ・ なぜ社会は民主主義でなければならないのか。
- ・ なぜ政府は経済に介入するべきなのか。
- ・ 社会は少数派の文化や女性のアイデンティティとどのように向き合うべきか。
- ・ 社会に潜む「力」（親、先輩、教師、雇用者、上司、メディアの力）はどういった場合に正当だとみなされ、どういった場合に不当だとみなされるのか。

- ・ グローバル化が進む中、自分の社会のことだけを考えて生きるだけでよいのか。

そのような問いに答えようとしてきた学問が「社会哲学」です。「社会哲学」とは、言い換えれば、人や社会にまつわる人々の信念を取り上げ、その妥当性（根拠の有無、根拠の強さ）について考察する学問です。

この授業を通じて、みなさんが深く考えずに鵜呑みにしてきた思い込みが根拠に基づく確信に変わるかもしれません。あるいは、根拠のない固定観念にすぎなかったと気づくかもしれません。または、これまで思いもなかった深い考え方に触れることができるかもしれません。いずれの場合であっても、みなさんが卒業後に一社会人（社会の一員）として生きる上で、あるいは親となり次の世代を育てる上で必要な発見を得られるはずです。

〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕

以下の5点を到達目標とします。

- ① ひとつの空間（社会や世界）を共有する者同士、どのような関係を築いていくべきか、深く考えられるようになること。
- ② 授業で学んだ視点や考え方を踏まえつつ、自分自身の意見を組み立て、他者に伝えるような形で発信できるようになること。
- ③ 現状を安易に受け入れることなく、現状の問題を乗り越え、新たな未来へと繋げていく意志や責任感を養うこと。具体的には、次の2点ができるようになること。
 - 社会・世界を広く見渡し、人類が直面している様々な現代的課題について客観的・批判的に考察し、今後どのような方向に社会・世界が進むべきかについて考えられるようになること。
 - 社会・世界を今よりも良くするために自分にできることは何か、真剣に考えられるようになること。
- ④ 授業で学んだ視点や他者の意見に対する自分なりの考えを、他者に伝えるような形で発信できるようになること。
- ⑤ 他者の意見を尊重しつつ、その意見に対し建設的なコメントを加え、他者（および自分）がさらに深く考えるきっかけを作れるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	「社会哲学」とは何か	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第2回	政治的義務 なぜ国民は政府に従わなければならないのか	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第3回	民主主義 その是非を問う	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第4回	国家と経済 「大きな政府」か「小さな政府」か	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第5回	文化の多様性と承認 国家は文化的少数派とどのように向き合うべきか	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第6回	フェミニズム 女性は国家に対して何を要求してきたのか	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第7回	力と権威 社会の陰に潜むもの	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第8回	グローバル化時代の哲学 ①地球の一員として人間はどのように生きるべきか	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第9回	グローバル化時代の哲学 ②「正義に合う世界」とはどのような世界か	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第10回	グローバル化時代の哲学 ③理想と現実の乖離を埋める責任を誰が負うべきか	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第11回	哲学と現実の接点 ①世界人権宣言	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第12回	哲学と現実の接点 ②SDGsと国連グローバル・コンパクト	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第13回	最終課題論文について	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。	60
第14回	まとめ	【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【提出課題】課題論文の提出	60

〔授業の方法〕

- 「知る→考える→議論する→さらに深く考える」という建設的プロセスを重視します。
- ・ 講義中、講義内容に関するグループ・ディスカッションまたはオープン・ディスカッションを行います。
- ・ 最終課題として、講義で学んだ哲学者の視点や、ディスカッションで生まれた様々な意見をもとに、論文（A4、2～3ページ程度）を書いてもらいます。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

特になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

要望の有無に応じて、メールまたは口頭にて対応いたします。また、進捗状況と学生側の努力の程度に応じて、授業外でも指導・相談の時間を設けます。

〔成績評価の方法〕

講義／ディスカッションへの参加姿勢：30%

リアクション・ペーパー：30%

学期末課題論文：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① 与えられた課題について自分の言葉で説明することができること。
- ② 授業で学んだ知識やディスカッションで挙げられた他者の見解、および独自の事前調査を踏まえつつ、自分なりの意見を盛り込んでいること。
- ③ 論理的かつ明快な文章で表現できていること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。講師の作成した「講義スライド」や「講義ノート」を使用します。

〔参考書〕

特になし。授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問や相談は、授業の前後またはオフィス・アワーに受け付けます。オフィス・アワーは学内専用ホームページで告知します。

〔特記事項〕

(4)アクティブ・ラーニング

講義名	総合特殊講義（現代社会学への道）						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121413750	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>テーマ：「現代社会を捉える」</p> <p>この授業では、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していきます。</p> <p>社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解があります。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えています。</p> <p>そうした現状を正確に把握するために、社会学的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していきます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>①社会学を通し、社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる（DP1、DP2）。</p> <p>②自分が生きている社会の問題点の在処を知り、社会の中での独自の思想的な立ち位置を、明確に他人に表し、発信することができる（DP4）。</p> <p>③社会学理論を理解し、社会学的に考察したことを通して、社会に存在する課題を発見し、解決策を探ることができる（DP3）。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	インTRODククション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・社会学の謎			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第2回	「社会」とは何か/その理論 ・社会学における社会学理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。 ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	消費社会（1） ・消費とは何かを考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	消費社会（2） ・モノの消費がもたらす現代社会の諸相について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	合理化 ・人間は合なげ理的に思考し、社会を合理的に把握する必要はあるのかについて考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	世界システム論 ・世界をシステムとして捉えることで浮上する問題には何かあるかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		90	
第7回	中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		60	
第8回	秩序問題 ・人間はなぜ社会を秩序づけようとするのかについて考える。 ・社会の発展法則の解明、危機の時代にこそ対応できる社会学、社会秩序のあり方について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	相互行為 ・シンボリック相互行為論とドラマトゥルギーの観点から、社会を考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	日常生活 ・エスノメソドロジー手法で日常生活を考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	人間の自我 ・人間の自我と他者のふるまいを通して、社会を考える。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	再帰性 ・現代社会は第二の近代社会か、について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	液状化とリスク化 ・社会全体の流動化、不安定化について考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第14回	総括 ・授業のまとめ ・キーワード、キー概念等を確認する。 ・到達度確認テスト			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
[授業の方法]							

基本的に、教科書、配布資料をもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。

なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。

- ・ 中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
- ・ 課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
- ・ 到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

得になし。

〔課題等へのフィードバック方法〕

翌週の授業の初めや Course Power 等で講評、解説を行う。

〔成績評価の方法〕

随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（25%）、到達度確認テスト（55%）による総合評価を基本とし、平常点および質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・ 社会学理論の基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。
- ・ 現代社会を積極的に捉える姿勢。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』、出口剛司、株式会社 KADOKAWA、1500 円（税別）

ISBN978-4-04-601990-5

教科書は書かれた順番通りには使用しない。

〔参考書〕

『ファーストステップ教養講座 社会学で描く現代社会のスケッチ』、友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典、株式会社みらい、2200 円（税別）

ISBN978-4-86015-485-1

購入の必要はないが、授業で内容について言及をすることがある。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	社会理解実践講義 (OB・OGが語るビジネス最前線)						
教員名	山上 浩明						
講義コード	121421300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>この授業は、現在社会で実務家として活躍中である本学OB・OGを講師に迎え、各講師の実務経験を活かして、各産業界の実態と将来の展望、求められる人材・人間像について講義します。社会人として生き抜いてきた経験談を交えながら、社会経済の実情と、履修者である学生それぞれの10年後、20年後に予想される社会人像を描きます。なお、諸事情により、担当講師、日程、講義内容が変更される場合があります。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)、DP5【多様な人々との協働】を実現するため、以下の到達目標を掲げる。</p> <p>(1)OB・OGの活躍するビジネスの状況を理解し、文章として表現できる。</p> <p>(2)将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修の目安 (分)	
第1回	フェラガモジャパン 代表取締役社長 小田切 賢太郎 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「グローバルブランドの2極化するマーケットに関する現状と展望」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第2回	ブランマンテ 社長 田島 弓子 講師 (文学部卒業) 講義テーマ「不確実な時代を生き抜く仕事とキャリアとの向き合い方」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第3回	成蹊学園 常務理事 (元三菱商事) 三嶋 偉一 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「総合商社の海外事業の現場にて (海外で働くとはどういうことか)」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。特に、三菱商事HPの中の会社紹介ビデオを視聴しておくこと。 https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/about/profile/ 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。		60	
第4回	メディアプロデューサー 幸脇 麻由子 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「人の心を動かす、企画力」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第5回	空港施設株式会社 代表取締役 副社長 西尾忠男 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「航空・空港におけるSDGsの取り組みと、ESG、SDGsについて」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第6回	人材開発コンサルタント 山崎 紅 講師 (法学部卒業) 講義テーマ「将来の働き方・生き方を考えるヒント、今できるアクション」 ー企業の人事・人材開発に携わるコンサルタントとして、大学生の自分に会えるなら伝えたいことー			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第7回	パーク・コーポレーション 専務取締役 COO 富永 悟司 講師 (工学部卒業) 講義テーマ「花業界における青山フラワーマーケットの独自性」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第8回	三菱地所 理事 OCA TOKYO館長兼GM 廣野 研一 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「新時代のライフスタイルのまちづくり」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第9回	NTTデータ常務執行役員 豊田 講師 (成蹊高校卒業) 講義テーマ「NTT データ：日本企業からグローバル企業への変革 -ITで世界を変える挑戦-」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第10回	三菱UFJ銀行 千葉支店長 田中誠人 講師 (法学部卒業) 講義テーマ「銀行の社会的役割について」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第11回	オリエンタルランド 特任理事 安岡譲治 講師 (経済学部卒業) 講義テーマ「東京ディズニーランドリゾートのホスピタリティについて」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第12回	UNDP 駐日代表事務所ユース担当コンサルタント 天野裕美 講師 (文学部卒業) 「世界の中の日本の役割/国際貢献の今」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第13回	Autify Inc. 創業者 近澤良 講師 (工学部卒業) 「AI時代の生き抜き方/起業のリアル」			【予習】講義テーマを確認し、講師の会社や業界について予備知識を得ておく。 【復習】授業内容を要約し、感想を著し、小レポートとして提出する。		60	
第14回	パネルディスカッション ファシリテーター：未定 パネラー (予定)： 作曲家・音楽P/ピースボイスエンターテイメント 菅原			【予習】パネルディスカッションのテーマについてあらかじめ自分の考えをまとめておく。 【復習】パネルディスカッションを通じて得た知見をふまえて、自分の考えが変わった点と変わらなかった点を		60	

	直洋(nao) 講師(経済) 三菱商事 平竹雅人 講師(経済), 西武HD 松岡千佳 講師(経済) テーマ:「最前線で活躍するOBOG達から学ぶ20代の生き方働き方」	確認する。討議内容を要約し、感想を著し、レポートとして提出する。	
[授業の方法] 講義形式で実施する。各回指示された予習資料を確認参照し、講義を受け、小レポートを提出する。			
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]			
[課題等へのフィードバック方法] 課題提出状況などの連絡をCoursePowerなどを通じて行う。			
[成績評価の方法] 平常点(各回のレポート課題提出50%)と平常点(各回のレポート課題内容50%)を目安として、積極性(講義内での発言や質問)も考慮しながら総合的に評価します。 尚、各回の講義を受けて提出されるレポート課題では、以下の視点から評価します: (1) OB・OGの活躍するビジネスの状況がしっかりと記述されている。 (2) (1)を踏まえて、各自のこれからのキャリアについて意欲的に述べられている。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 (1) OB・OGの活躍するビジネスの状況を授業の内容から理解し、文章として表現できる。 (2) 将来、社会に出ていく者として、「社会で働く」ということを主体的に考え、現状・課題等を文章として表現できる。			
[必要な予備知識/先修科目/関連科目] 必要な予備知識、先修科目は特になし。 関連科目は成蹊教養カリキュラムのキャリア教育科目など。			
[テキスト] 特になし。			
[参考書] 授業中に適宜紹介します			
[質問・相談方法等(オフィス・アワー)] ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
[特記事項]			

講義名	産業組織論A						
教員名	矢作 健						
講義コード	121511000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論Aでは、市場でみられる価格付けについて、現実の市場構造でみられる独占・寡占とよばれる少数の企業による戦略的行動に焦点を当てて分析を行います。これらは市場競争が十分に機能していないこととされており、こうした不完全競争の問題点を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・ミクロ経済学・産業組織論における「企業」や「市場」とは何か			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	完全競争市場（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	完全競争市場（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	完全競争市場（3）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	独占市場（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	独占市場（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	独占市場（3）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	ゲーム理論			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	寡占市場（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	寡占市場（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	寡占市場（3）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	寡占市場（4）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	寡占市場（5）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
<p>[授業の方法]</p> <p>授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題（宿題・レポートの提出）または小テスト30%、学期末試験70%で総合的に評価します</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学の知識があると望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- 『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)
- 『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)
- 『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	産業組織論B						
教員名	矢作 健						
講義コード	121511100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要] 産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論Bでは、企業が競争を回避するため、または消費者の特性に合わせた戦略（製品差別化、カルテル、合併、開発競争、ネットワーク効果など）に焦点を当てて分析を行います。こうした企業間の戦略的な行動がもたらす社会への影響を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける。 ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・産業組織論Bの内容について			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	完全競争市場			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	独占市場			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	寡占市場			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	垂直取引			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	カルテル（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	カルテル（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	非価格戦略（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	非価格戦略（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	非価格戦略（3）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	参入			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	イノベーション			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	ネットワーク			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
<p>[授業の方法] 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
<p>[成績評価の方法] 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト30%、学期末試験70%で総合的に評価します</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、産業組織論 A の知識があると望ましいですが、必須ではありません

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- 『ブラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)
- 『競争政策論 第 2 版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)
- 『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	法と経済						
教員名	矢作 健						
講義コード	121511700	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 法と経済では、法律のような社会のルールに関する現象をミクロ経済学・ゲーム理論といった経済学的手法を応用して分析する学問分野です。この講義では、社会のルール（法律など）や法制度が社会の人々の行動（インセンティブ）に与える影響を明らかにし、その社会への影響を資源配分の効率性の観点から考察していきます。具体的には、所有権、契約法、事故法、訴訟に関する手続き、刑法などを取り扱いたいと思います。そして、実際にどのように社会のルールが作成され、適用されていくのかについても考えていきたいと思います。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・法と経済学の概要の説明			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第2回	ミクロ経済学の考え方（1） ・ミクロ経済学の分析手法と社会厚生（効率性）の考え方を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第3回	ミクロ経済学の考え方（2） ・市場の失敗とルール作りの必要性を学ぶ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第4回	所有権（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第5回	所有権（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第6回	ゲーム理論			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第7回	不法行為法（1）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第8回	不法行為法（2）			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第9回	契約法			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第10回	裁判			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第11回	会社法			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第12回	刑法			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第13回	立法プロセス			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
第14回	まとめ			予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認		60分	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							
<p>〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト30%、学期末試験70%で総合的に評価します</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する
- ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の知識があれば望ましいが、必要ではない

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- ・『法と経済学』 スティーブン・シャベル 田中亘・飯田高（訳）、日本経済新聞出版社（ISBN 978-4532405854）
- ・『The Economic Approach to Law, Third Edition』 Thomas Miceli、Stanford Economics and Finance（ISBN 978-1503600065）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	ベーシック民法						
教員名	渡邊 知行						
講義コード	121513000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>『市民生活・社会経済生活、企業取引に関わる民法の基本的なルール（契約、所有権、不法行為など）』 ・民法の基本的な制度とルールを、具体的な事例に照らして理解する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の4点を到達目標とする。</p> <p>①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解する。 ③民法の基本的なルールが具体的な事案にどのように適用されるのかを理解している。 ④民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解する。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容と進め方 ・民法の学習方法			授業内容の確認。		60分	
第2回	民事法・民法の全体像 ・民法の適用範囲と特別法 ・民法の構造 ・民法改正の歴史			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	民法の基本原則 ・権利と義務 ・物権と債権 ・権利の濫用 ・契約自由・所有権・過失責任			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	法律行為・契約 ・法律行為・契約・意思表示 ・公序良俗と契約 ・契約の無効・取消事由 ・権利能力・意思能力・行為能力			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	代理 ・代理制度の意義 ・無権代理 ・表見代理			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	時効 ・時効制度の意義 ・完成猶予と更新 ・取得時効と消滅時効			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	契約の成立と債務不履行 ・契約の成立 ・債務不履行と損害賠償 ・契約の解除			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	所有権 ・動産と不動産 ・所有権の取得と対抗要件 ・物権的請求権			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	不法行為 ・不法行為の機能と保険制度 ・不法行為の要件 ・使用者責任・工作物責任 ・損害賠償の内容			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	債務の弁済 ・保証・抵当権 ・銀行送金 ・クレジットカード			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	家族法（親族法・相続法）の概要 ・夫婦・親子関係 ・法定相続・遺言			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	紛争事例の解決（1） 消費者契約について、民法や消費者契約法などの基本的なルールを概説したうえで、紛争事案の解決をどのように図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第13回	紛争事例の解決（2） 不動産賃貸借契約について、民法や借地借家法などの基本的なルールを概説したうえで、紛争事案の解決をどのように図るべきかを検討する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第14回	期末レポート課題の出題			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
[授業の方法]							

- ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。
- ・第 12 回、13 回の授業では、具体的な紛争事案を取り上げて、どのような解決を図るべきかを検討する。授業のなかで受講者の意見を聴く。
- ・レポート課題（中間レポート 2 回と期末レポート）を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。

〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕

〔課題等へのフィードバック方法〕

- ・中間レポート課題については、授業中に講評・解説するとともに、解答例を CoursePower に掲示する。
- ・期末レポート課題については、解答例と解説を CoursePower に掲示する。

〔成績評価の方法〕

- ・中間レポート課題（40%）、期末レポート課題（60%）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の 3 点に着目し、その達成度により評価する。

- ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。
- ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解している。
- ③民法の基本的なルールが具体的な事案にどのように適用されるのかを理解している。
- ④民法の基本的な制度が社会のなかでどのように機能しているのかを認識できている。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

『民事法入門（第 9 版）』 野村豊弘著、有斐閣、1980 円、ISBN : 9784641222472

〔参考書〕

『法と経済学』得津品＝西内康人著、有斐閣、2400 円、ISBN : 9784641151222 「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

講義名	金融論A						
教員名	鈴木 史馬						
講義コード	121531200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026前期
<p>[テーマ・概要] 金融取引とは、現在利用する予定のない資源を所有する資金余剰主体と現在資源を利用したいが資源を所有していない資金不足主体が資源を融通し合う取引である。本科目では、金融取引に関する様々な仕組みや機能を経済学に基づいて解説します。また、金融資産の価格の決定メカニズムや、金融機関の役割などについても解説します。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細] DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 金融についての基本的知識を習得する。日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第2回	金融システム ・金融仲介の全体像である金融システムについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第3回	日本の資金循環 ・資金循環統計を見ながら、日本の金融システムの全体像について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第4回	金融取引の基本 ・金利やリスクプレミアムなど、金融取引に際して重要な事項を説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第5回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係（1） ・マクロ経済における貯蓄と投資の均衡について基本モデルを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。。		60	
第6回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係（2） ・金融市場の均衡の基本モデルを利用し、日本の資金循環について分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第7回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係（3） ・政府が国債を発行する場合の金融市場の均衡のモデルについて説明する。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第8回	金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係（4） ・日本の財政赤字と金融政策 ・政府部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本の財政赤字や金融政策に分析する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第9回	これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第10回	資金市場の均衡と国際収支（1） 国際収支統計の基本			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第11回	資金市場の均衡と国際収支（2） 国際収支統計の基本（続き）			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第12回	資金市場の均衡と国際収支（3） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第13回	資金市場の均衡と国際収支（4） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第14回	資金市場の均衡と国際収支（5） 小国開放経済モデルによる日本の対外取引の分析			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
<p>[授業の方法] 通常の講義形式で実施する。授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験を実施する場合：学期末試験（60%）および平常点（40%）で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（100%）で成績評価する。 平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づき評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目 経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」 現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」 経済経営学科 「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」 関連科目 「金融論 B」「ファイナンス A」「ファイナンス B」があります。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特に指定しない。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	金融論B						
教員名	鈴木 史馬						
講義コード	121531300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>金融とは、資金余剰主体と資金不足主体が現在と将来の間で資源を融通し合う行為であり、時間を通じた資源配分を決定する取引である。金融取引を媒介する金融資産には様々なものがあり、異なる資産は異なる価格を持つが、それら資産価格は共通の決定パターンを持ち、資産価格の差（一般には超過収益率と呼ばれる）は経済主体の意思決定に重要な影響を与える。同時に、経済主体の不確実性下の意思決定影響が資産価格を決定する。この授業は、マクロ経済学の観点から金融市場における価格形成がどのように決まるのかを分析する資産価格理論の基本をする。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 日本や世界の金融市場の現状と歴史の変遷について、経済学に基づく知識を習得する。特に、日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。			金融の全体像を理解するよう復習する。		60	
第2回	貨幣市場と資産市場 ・資産市場で決まる資産価格・利率と、貨幣市場における貨幣の需給バランスがどのような関係にあるのかを説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第3回	資産価格決定の基礎（1） 利率・収益率と資産価格について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第4回	資産価格決定の基礎（2） 割引現在価値モデルによる資産価格決定について説明し、合わせてバブルについても説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第5回	資産価格決定の基礎（3） 危険資産とリスクプレミアムについて説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第6回	資産価格決定の基礎（4） ポートフォリオ選択の考え方について説明する。			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第7回	到達度確認テスト ・小テストを実施する ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。			小テストに向けてよく復習する。		60	
第8回	資産価格決定の経済学の基礎（1） ・資産価格バブル ・バブルと崩壊のエピソード			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第9回	資産価格決定の経済学の基礎（2） ・交換経済2期間モデルによる利率とエクイティプレミアム決定メカニズム			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第10回	資産価格決定の経済学の応用（1） ・2期間モデルへの disaster risk の導入			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第11回	資産価格決定の経済学の応用（2） ・2期間モデルへの個別的风险の導入			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第12回	資産価格決定の経済学の応用（3） ・3期間モデルへの disaster risk の導入とエクイティプレミアム			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第13回	資産価格決定の経済学の応用（4） ・3期間モデルへの disaster risk の導入と金利の期間構造			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
第14回	資産価格決定の経済学の応用（4） ・資産価格と経済厚生			授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>一般の講義形式で行います。 なお、授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
<p>[課題等へのフィードバック方法]</p> <p>授業内のテストの結果を Forms などでフィードバックする。</p>							
[成績評価の方法]							

学期末試験(60%)および平常点(40%)で成績評価する。
平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。
なお、状況により、期末試験は行わず平常点100%で評価することもあります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づき評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目
経済数理学科 「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
現代経済学科 「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」
関連科目 「金融論A」があります。

〔テキスト〕
特に指定しない。

〔参考書〕
適宜紹介する。

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	国際金融論						
教員名	鈴木 史馬						
講義コード	121531400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、マクロ経済学・ファイナンスの応用分野として、国際金融と呼ばれる領域のテーマを扱います。マクロ経済学やファイナンスの標準的な理論を復習しながら、それを国際金融市場の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。</p> <p>講義の前半では短期のモデルとして IS-LM モデルを国際経済に応用したマンデル・フレミングモデルを解説します。これにより、為替レートの変動が国内の景気循環に与えるメカニズムを理解することを目的とします。</p> <p>講義の後半では長期のモデル（2期間モデル、OLG モデル）を国際経済に応用します。これにより、国際間の経常収支・金融収支が長期的に持続可能かどうか、グローバルインバランスの持続可能性について理解することを目的とします。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を身につけるために実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。 マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	国際マクロ経済学のオーバービュー			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第2回	為替レートの決定メカニズム（1） 購買力平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第3回	為替レートの決定メカニズム（2） 金利平価仮説			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第4回	為替レートの決定メカニズム（3） データで見る購買力平価・金利平価の説明力			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第5回	為替レートの決定メカニズム（4） 国際金融制度			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第6回	開放経済の短期モデル（マンデルフレミングモデル）（1） IS-LM モデルの基本と純輸出開数の導入			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第7回	開放経済の短期モデル（マンデルフレミングモデル）（2） 固定相場制度の下で金融・財政政策			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第8回	開放経済の短期モデル（マンデルフレミングモデル）（3） 変動相場制度の下で金融・財政政策			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第9回	開放経済の短期モデル（マンデルフレミングモデル）（4） 通貨危機の分析			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第10回	開放経済の長期モデル（1） 経常収支の持続可能性 開放交換経済2期間の主体均衡			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第11回	開放経済の長期モデル（2） 開放交換経済2期間の一般均衡と経常収支の持続可能性			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第12回	開放経済の長期モデル（3） 開放交換経済 OLG モデル			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第13回	開放経済の長期モデル（3） 開放交換経済 OLG モデルと経常収支の持続可能性			事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。		60	
第14回	授業のまとめ			これまでの授業内容をよく復習する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点（毎回の提出課題等）(40%)で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（毎回の提出課題や授業内での試験等）(100%)で成績評価する。</p>						
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。 2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。 3. 発展的テーマへの考察ができる。 						
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>先修科目：</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">経済数理学科</td> <td>「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など</td> </tr> <tr> <td>現代経済学科</td> <td>「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など</td> </tr> <tr> <td>経済経営学科</td> <td>「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」</td> </tr> </table>	経済数理学科	「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など	現代経済学科	「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など	経済経営学科	「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」
経済数理学科	「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など					
現代経済学科	「初級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論」など					
経済経営学科	「マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ」「金融経済学」					
<p>〔テキスト〕</p> <p>適宜、指定する。</p>						
<p>〔参考書〕</p> <p>植田健一・服部孝洋（2024）『国際金融』（日本評論社）</p>						
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>						
<p>〔特記事項〕</p>						

講義名	環境経済学A						
教員名	山上 浩明						
講義コード	121551000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 環境問題はさまざまな形態をとってわれわれの生活の中に存在している。粉塵・煤煙や廃棄物などの地域的環境問題から、気候変動に代表される大域的環境問題に至るまで、これらすべての問題をヒトの経済活動と切り離すことはできない。そこで本講義では、これらの環境問題を経済学（理論モデル）の観点から考察する。前半は環境経済学の基礎理論として外部性について学ぶとともに代表的な経済的手法を紹介する。後半では、具体的な環境政策立案に関する障壁となる、情報の非対称や政治的な問題についても経済学を用いて考察する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする。 ①経済学的観点から様々な環境問題について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス&イントロダクション			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：レジュメ内でわからない用語や概念などを調べる。		60~120分	
第2回	1. 環境問題の原因とその対策：ミクロ経済学（効用最大化など）			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第3回	1. 環境問題の原因とその対策：財市場と外部性			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第4回	1. 環境問題の原因とその対策：外部性と余剰分析			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第5回	1. 環境問題の原因とその対策：外部性と環境政策(1)			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第6回	1. 環境問題の原因とその対策：外部性と環境政策(2)			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第7回	1. 環境問題の原因とその対策：外部性とコースの定理			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第8回	2. さまざまな環境政策：排出量モデル			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第9回	2. さまざまな環境政策：ボーモル・オーツ税			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第10回	2. さまざまな環境政策：排出量取引			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第11回	2. さまざまな環境政策：価格 vs 数量			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第12回	3. Current Topics 1：企業の社会的責任			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第13回	3. Current Topics 2：気候変動の経済学			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
第14回	総括			予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く		60~120分	
<p>〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて資料を配布する。複数回の小テストが実施される。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 小テストなどが実施された場合、採点后にその結果や傾向を講義内で伝える。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%）</p>							

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①経済学的観点から環境問題と環境政策について整理してとらえることができる。
- ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学関連科目、環境問題に関連する科目をすでに履修済みであることが望ましい。ただし、それと同等の知識があれば履修可能である。

〔テキスト〕

講義資料を各自シラバスでダウンロード・印刷トピック毎に下記の異なる参考書を用いる。

〔参考書〕

- [1]日引聡・有村俊秀（2023）『入門 環境経済学 新版』中公新書 ISBN:4-12-1-1648-3, ¥900+tax
 - [2]C. D. Kolstad (1999) Environmental Economics, Oxford University Press, (日本語版：細江守紀、藤田敏之(2001)『環境経済学入門』有斐閣)
- その他、講義内で紹介する。尚、購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

講義名	都市経済学						
教員名	相場 郁人						
講義コード	121551200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>ミクロ経済学に基づいたアプローチにより、都市や地域のような空間的広がりを持つ対象を経済学的に分析する理論的枠組みを学ぶ。都市内や地域間の人口分布はどのように決まるのか、なぜ経済活動は都市に集積するのか、どのような要因が都市の拡大・縮小をもたらすのかといった問いに対して、経済理論に立脚した議論を行えるようにすることを目標とする。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地や住宅の価格がどのように決まるのか説明することができる。 ・都市構造がどのように決まるのか説明することができる。 ・人口が集積することによるメリットとデメリットを説明することができる。 ・都市規模がどのように決定されるのか説明することができる。 ・輸送費と都市集積の関係を論じることができる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス：都市とは何か			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第2回	土地市場（1）：地代と地価			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第3回	土地市場（2）：地価の決定			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第4回	住宅市場（1）：住宅価格の決定			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第5回	住宅市場（2）：住宅の異質性と価格			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第6回	都市内の土地利用（1）：付け値地代			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第7回	都市内の土地利用（2）：単一中心都市モデルの基礎			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第8回	都市内の土地利用（3）：単一中心都市モデルの応用			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第9回	都市システムモデル（1）：集積の経済			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第10回	都市システムモデル（2）：都市規模の決定			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第11回	都市システムモデル（3）：空間均衡の複数性			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第12回	新経済地理学（1）：輸送費と集積			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第13回	新経済地理学（2）：前方連関効果と後方連関効果			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
第14回	まとめ：都市経済の理論と実証			【予習】講義資料に目を通しておく。 【復習】授業内で登場したキーワードを自分なりの言葉で説明できるようにしておく。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>教員作成の資料をもとに、講義中心で進める。定期的な予習・復習に取り組み、分からない点を分からないままにしないよう努めることが望ましい。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							

<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none">・学期末試験：90%・授業への参加状況：10%
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>学部 1 年生で学ぶマイクロ経済学の知識を前提とする。数学（主に微積分）の知識もあれば、講義内容の理解がより深まりやすい。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特定の教科書に基づかない。教員作成の資料により講義を行う。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>必要に応じて授業内で紹介する。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	環境と法						
教員名	渡邊 知行						
講義コード	121553300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>『公害・環境問題と環境法』</p> <p>・1960年代から現在に至る公害・環境問題の展開を踏まえながら、環境問題・環境政策と環境法の基本的なルールを考察する。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の2点を到達目標とする。</p> <p>①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。</p> <p>②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、環境汚染（公害）、地球温暖化、循環型社会、生物多様性など環境問題の重要な課題を理解して、その解決策を考えることができる。</p>							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス 授業内容と進め方を説明する。			授業の内容を確認する。		60分	
第2回	公害・環境法の展開（1） 1980年代まで、戦後の経済成長に伴う公害問題について、裁判を通じてどのような解決がなされてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第3回	公害・環境問題の展開（2） 1990年代以降、生活環境から循環型社会、地球温暖化対策、生物多様性まで、環境法が、国際条約を通じてどのように整備されてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第4回	環境権と環境紛争 環境権論が普及するなかで、公害、騒音、日照、景観などをめぐる環境紛争がどのように解決されてきたのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第5回	環境法の基本原則 環境汚染を防止するための基本原則である、予防原則や原因者負担原則について、その内容を概説したうえで、具体的な事案にどのように当てはまるのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第6回	環境政策の手法 行政規制のほか、自主的な取り組みを促す、合意的手法（公害防止協定など）、経済的手法（環境税、排出枠取引など）、情報的手法（環境ラベリングなど）について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第7回	環境基本法・環境影響評価 都市開発などにおける環境配慮、環境アセスメント（影響評価）の手続きについて考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第8回	大気汚染対策 公害訴訟を経て整備された、大気汚染防止法による工場・発電所などのばい煙や自動車排ガスの規制、さらに、光化学スモッグ対策やアスベスト粉じん飛散防止対策などについて考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第9回	水質汚濁・土壌汚染対策 海洋・河川・湖沼の環境保全にとどまらず、地下水汚染対策、生活排水対策も含めて整備された水質汚濁防止法による規制、土壌汚染対策法による土壌汚染の把握・被害発生防止措置について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第10回	廃棄物の処理 廃棄物処理法に基づいて、廃棄物の不法投棄などによって有害物質が環境を汚染しないように、国・自治体・事業者・市民がどのような役割を担って、一般廃棄物・産業廃棄物をどのように処理することが求められるのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第11回	循環型社会 環境への負荷を低減するために、資源の消費や廃棄物の発生を抑制し、使用後の製品をできる限り再利用することが必要である。3R政策（リデュース、リユース、リサイクル）のための循環型社会形成推進基本法・資源有効利用促進法、製品の種類ごとの個別リサイクル法に基づく排出削減、再商品化について考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	
第12回	地球温暖化対策 温室効果ガス（二酸化炭素など）が大量に排出されることによる地球温暖化が進行し、異常気象による災害、熱中症など健康の悪化、農作物の品質低下など様々な損失が深刻になっている。先進的なEU諸国の動きをみながら、地球温暖化対策推進法に基づく緩和策、気候変動適応法に基づく適応策がどのように展開されているのかを考察する。			授業内容をテキストや授業資料で復習する。		60分	

第13回	生物多様性 食糧生産、医療など人類が生存する基盤となる生物多様性・生態系を維持していくために、生物多様性基本法に基づいて、国・自治体がどのような役割を担って、どのような対策を進めていくことが必要であるのかを考察する。	授業内容をテキストや授業資料で復習する。	60分
第14回	授業で学習した全体の内容をまとめる。	授業内容をテキストや授業資料で復習する。	60分
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・レポート（中間レポート2回と期末レポート）課題を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。 			
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕			
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題については、授業中に講評・解説するとともに、解答例を CoursePower に掲示する。 ・期末レポート課題については、解答例と解説を CoursePower に掲示する。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題2回（40%）、期末レポート課題（60%）。 			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の2点に着目し、その達成度により評価する。</p> <p>①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につけて説明できる。</p> <p>②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、循環型社会、地球温暖化、生物多様性などに関する環境問題の解決策を検討できる。</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <p>『環境法 BASIC(第4版)』 大塚直著、有斐閣、5060円、ISBN：9784641233126</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>『環境白書』環境省 https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/</p>			
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p> <p>また、授業終了後に教室で受け付けます。</p>			
〔特記事項〕			

講義名	資源経済学						
教員名	清水 政行						
講義コード	121553400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>本講義では、途上国の貧困問題や資源利用に関わる開発課題を取り上げて、「貧困はどうして存在し続けるのか」や「開発のためにどのように資源を活用すべきか」をテーマに、「開発経済学」をベースにしながらミクロ経済学的な観点から学習を進める。授業では、テキストの流れに沿いながら各回のテーマを決めて、関連する箇所については参考書も参照しながら理解を深めていく。ただし、理論面については、簡単な数式や経済モデルを使用するため、テキストよりも上級の内容になる。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）およびDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	貧しい人々の暮らし ：開発のミクロ経済学と市場の不完全性 [テキスト：黒崎・栗田（2016）プロローグ] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）1章] [参考書：黒崎・山形（2017）2章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第2回	農業Ⅰ ：小農は搾取されているのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）1章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第3回	農業Ⅱ ：小農は非合理的農民なのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）1章] [参考書：黒崎・山形（2017）4章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第4回	農村信用市場Ⅰ ：非対称情報と信用制約 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）5章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第5回	農村信用市場Ⅱ ：マイクロクレジットの機能と限界 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）10章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第6回	教育と健康 ：なぜ人的資本への投資は重要なのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）3章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）4章] [参考書：黒崎・山形（2017）6章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第7回	労働移動Ⅰ ：過剰労働と偽装失業 [テキスト：黒崎・栗田（2016）4章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第8回	労働移動Ⅱ ：都市失業とスラム [テキスト：黒崎・栗田（2016）4章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）6章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第9回	経済成長と工業化 ：どうして生産性は上昇しないのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）5章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第10回	技術移転と開発金融 ：どうすれば生産性は上昇するのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）6章・7章] [参考書：黒崎・山形（2017）8章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第11回	開発援助Ⅰ ：援助の氾濫とファンジビリティ [テキスト：黒崎・栗田（2016）8章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第12回	開発援助Ⅱ ：援助の効果とランダム化比較実験 [テキスト：黒崎・栗田（2016）8章・補論] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）10章] [参考書：黒崎・山形（2017）3章・9章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第13回	持続可能な開発Ⅰ ：環境と開発は対立するのか？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）9章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第14回	持続可能な開発Ⅱ ：資源やエネルギーの利用は持続可能か？ [テキスト：黒崎・栗田（2016）9章] [参考書：黒崎・山形（2017）11章]			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
<p>[授業の方法]</p> <p>対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>小テストが実施された場合、採点後に授業の中でその解説を行う。また、学期末試験については、採点終了後に CoursePower からフィードバックを行う予定である。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>小テスト（30%）、学期末試験（70%）。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>ミクロ経済学関連の科目を履修していることを前提にして講義を実施する。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学—途上国の暮らしを考える』有斐閣 2016 年（1,800 円＋税）</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>アジア経済研究所等編『テキストブック開発経済学 第 3 版』有斐閣 2015 年（2,300 円＋税）※購入の必要なし 黒崎卓・山形辰史『開発経済学—貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社 2017 年（2,700 円＋税）※購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>授業終了後に受け付ける。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	環境経済学B						
教員名	山上 浩明						
講義コード	121553500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 日本の環境政策は公害対策や自然環境保護から発展してきたが、廃棄物、資源・エネルギー、気候変動などのように取り組むべき環境問題は広がり続けている。本講義は、日本の環境問題や、環境政策を中心として、その歴史・目的・効果などを紹介しながら、これらの問題と対策を描写する簡単な経済モデルを解説する。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①環境問題・環境政策に係る主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。 ②問題解決・政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス&イントロダクション 環境問題における社会科学の視点			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第2回	1. 環境問題とは何か 類型・特徴・公害			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第3回	1. 環境問題とは何か 公害と環境法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第4回	1. 環境問題とは何か (経済学) 公害と規制			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第5回	2. 裁判と補償 特別措置法と患者認定基準			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第6回	2. 裁判と補償 (経済学) 量規制と患者認定			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第7回	3. 廃棄物問題 廃棄物の定義・類型と日本の現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第8回	3. 廃棄物問題 一般・産業廃棄物対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第9回	3. 廃棄物問題 (経済学) 廃棄物関連対策			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第10回	4. エネルギー問題 歴史・定義・現状			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第11回	4. エネルギー問題 政策動向			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第12回	5. 環境評価法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第13回	5. 環境評価法			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
第14回	総括			テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。		60~90分	
<p>〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて講義資料を配布する。数回の小テスト、期末試験が予定されている。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 小テストが実施された場合は、採点后に全体の結果・傾向を講義内で伝える。</p>							
<p>〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%）</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p> <p>①環境問題・環境政策に関する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。</p> <p>②問題解決と政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>関連科目として、環境関連科目全般とマイクロ経済学関連科目が挙げられる。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特に指定しない。ただし、以下の書籍を中心に講義資料を作成する。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>[1] 栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』有斐閣, ISBN978-4-641-17729-1, ¥2,400+tax</p> <p>[2] 有村俊秀・日引聡(2023)『入門 環境経済学 新版』中公新書, ISBN978-4-12-102751-1, ¥900+tax</p> <p>[3] 浅子和美・落合勝昭・落合由紀子(2015)『グラフィック 環境経済学』新世社</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	地域・環境特殊講義（環境社会学の基礎）						
教員名	挾本 佳代						
講義コード	121553600	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>テーマ：「自然環境と人間の在り方を考える」</p> <p>環境問題としてわたしたちが考えなければならないのは、いま目の前で発生している自然環境の破壊の現状だけではありません。わたしたちに求められているのは、何よりそうした自然環境破壊が発生するようになった原因や背景を探り、その思索を社会の考察に生かしていくことです。</p> <p>この授業では、水俣病被害調査、捕鯨問題等を通して、被害（加害）構造論、受益圏・受苦圏論、社会的ジレンマ論、生活環境主義を理解し、「人間-自然」「社会-自然」がどのような形で折り合いをつけていくことができるのか／できたのかを探りながら、いまなお解決されることのない環境問題をさまざまな観点から考察していく予定です。</p> <p>自分自身が生きている現代社会はどのような切実な問題を抱えている社会なのか、という問題意識をもちつつ授業にのぞんでくれることを希望します。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>①わたしたちの社会がどのように自然環境破壊と折り合いをつけてきたのかについて、深く理解し、説明できる。</p> <p>②環境開発会議などの対策や方針を理解し、説明できる。</p> <p>③身近な環境問題について現状を理解し、説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 <p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間と自然との関係性をどのように理解すればいいのかを説明する。 			<p>【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。</p> <p>【復習】人間と自然の関係性の考え方について、自分で言葉にして説明できるようにしておく。</p>		60	
第2回	<p>持続可能性という概念</p> <ul style="list-style-type: none"> この概念がいつ、どのような形で登場してきたのか、またこの概念の本質的な意味を考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第3回	<p>人間中心主義と社会と環境(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西欧近代社会以来の「人間中心主義」の思想を考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第4回	<p>人間中心主義と社会と環境(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西欧近代社会以来の「社会」と「環境」の概念について説明をする。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第5回	<p>ポスト京都議定書／環境開発会議の現状(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都議定書、パリ協定、COP をめぐる国際情勢について考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第6回	<p>ポスト京都議定書／環境開発会議の現状(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境開発会議の歴史、採られてきた政策、日本のおかれた現状について考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第7回	<p>中間テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。 			<p>【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。</p>		60	
第8回	<p>水俣病被害調査研究(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水俣病がどのように日本人に受け止められてきたのかを、文学作品を通じて解説する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第9回	<p>水俣病被害調査研究(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水俣病裁判がどのように進展していったのか、日本人の受け止め方は変化していったのかについて考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第10回	<p>捕鯨問題の現実(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本はなぜ捕鯨を IWC に対して主張するのか。この問題をクジラの生息数の変遷、調査捕鯨の現状、日本におけるクジラ文化のあり方の歴史などから考察していく。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第11回	<p>捕鯨問題の現実(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> IWC における日本の捕鯨擁護の立場を考察する。 環境問題や海洋資源問題から捕鯨をどのように捉えていくべきなのかを考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第12回	<p>日本の食卓からみる環境問題(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本における食の欧米化が環境問題にどのような影響を及ぼしているのかを考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第13回	<p>日本の食卓からみる環境問題(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> FTA の現状、地産地消の取り組みから食と環境問題を考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>		60	
第14回	<p>授業のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> キーワード、キー概念を取り上げながら、環境問題が発生した根底に潜む問題について考察する。 			<p>【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにし、到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。</p>		60	

<p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。</p>
<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>翌週の授業やポータルで解説する。</p>
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（30%）、到達度確認テスト（55%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p>
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ①基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。 ②人間と自然環境との関係性に対する深い思考。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>授業で適宜指示をする。</p>
<p>〔参考書〕</p> <p>授業で適宜指示をする。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	財政学A						
教員名	内田 雄貴						
講義コード	121571000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>[テーマ・概要]</p> <p>政府の活動は社会保障、公共事業、国防など多岐に渡り、多くの国において重要な役割を果たしています。財政学は、このような政府の経済活動について幅広く分析を行う学問です。本講義では、財政学の基礎について解説を行います。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]</p> <p>DP1(専門分野の知識・理解)を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の役割を説明できる。 ・政府の政策が経済に与える影響を理解する。 							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	政府の役割(1) ・経済における政府の役割について説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	政府の役割(2) ・経済における政府の役割について説明します(続)。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	財政制度 ・財政の仕組みと歴史について学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	公共財 ・「市場の失敗」にどう対処するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	租税(1) ・税の仕組みと原則を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	租税(2) ・基幹税をどう設計するかについて説明します。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	社会保障(1) ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	社会保障(2) ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます(続)。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	地方財政(1) ・国と地方の財政関係を学びます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	地方財政(2) ・国と地方の財政関係を学びます(続)。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	異時点間の財政運営(1) ・財政赤字の負担と発生原因を考えます。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	異時点間の財政運営(2) ・財政赤字の負担と発生原因を考えます(続)。			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめを行います。			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
<p>[授業の方法]</p> <p>講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、課題の出題を毎回行います。</p>							
[パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)]							
[課題等へのフィードバック方法]							
[成績評価の方法]							

平常点(授業への参加状況、課題の提出状況)40%、期末試験 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

『財政のエッセンス』、西村・宮崎、有斐閣ストゥディア(購入の必要なし)

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

講義名	財政学B						
教員名	中島 正博						
講義コード	121571100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>地方財政は私たちの生活に密接に関わっている。教育や社会福祉制度だけでなく、道路や上下水道などのインフラ整備も地方自治体によって実施されている。人口減少対策、地方創生は地方（いわば田舎）の課題と思われがちだが、首都圏も人口減少の自治体がほとんどであり、少子化・超高齢化社会を持続的に支えることも課題となっている。</p> <p>そこで本講義では、このような課題を明らかにし、課題解決の方策を考えるために、必要な経済学の理論とともに、地方自治体の行政制度、地方税や地方交付税、補助金といった歳入の制度と構造、歳出面では、社会福祉・社会保障や公共事業の制度と現状などを知識として共有することを目指す。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>経済学（ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、公共経済学など）とともに、地方自治体の制度に関する知識にもとづいて、地方財政が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション： 講義の目的と到達目標について			【事後学習】講義ノートをもとに余剰分析の考え方や無差別曲線などの概念を理解する。		60	
第2回	教科書 第1章 地方財政の現状と改革の課題			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第3回	教科書 第2章 地方制度と地方財政			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第4回	教科書 第3章 地方財政の運営			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		60	
第5回	教科書 第4章 地方財政の経費と財政指標			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第6回	教科書 第5章 地方税総論			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第7回	教科書 第6章 地方税各論			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第8回	教科書 第7章 地方交付税			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第9回	教科書 第8章 補助金・負担金・交付金			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第10回	教科書 第9章 地方債			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第11回	教科書 第10章 社会保障			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第12回	教科書 第11章 公共事業と地域活性化			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第13回	教科書 第12章 公営事業			【事前課題】教科書の該当部分を予習する。 【事後課題】レポートに取り組む。		90	
第14回	講義のまとめ			【事前課題】教科書や講義ノートを復習する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>対面での講義。 教科書を予習していることを前提に、適宜、レジュメや資料を配布・投影して講義を行う。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕</p> <p>基本的には翌週に、提出されたレポートの講評をポータルサイトにアップする。</p>							
〔成績評価の方法〕							

第1回と最終回を除き、毎回、レポートの提出機会を設ける。レポートは1回15点満点で採点し、12回のうち上位8回の合計点を、100点に換算して評価する。講義に欠席してもレポートを提出する権利はあるが、欠席は欠席であるので、1/3（5回）以上の欠席は、単位を取得できない。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

篠原・大澤・山下『テキストブック地方財政』（第3版）、創成社。3300円。ISBN：978-4-7944-3243-8

〔参考書〕

必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

講義名	公共経済学						
教員名	内田 雄貴						
講義コード	121571200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、経済において政府はどのような役割を果たすべきか、また、政府は期待される役割を果たすことができるのかについて、経済モデルを用いながら考えていきます。まず、市場の失敗を学び、政府の役割について検討します。次に、政策を決めるための政治過程を学習し、政府の役割の実行可能性について考えます。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済において政府が果たすべき役割について説明できる。 ・政治過程を通じた政策決定について説明できる。 							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	モデル分析と社会的余剰最大化① ・社会的余剰最大化			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	モデル分析と社会的余剰最大化② ・需要曲線と供給曲線			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	市場の失敗			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	民主主義と社会的意思決定① ・アローの不可能性定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	民主主義と社会的意思決定② ・中位投票者定理			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	間接民主制と選挙制度① ・間接民主制			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	間接民主制と選挙制度② ・さまざまな選挙制度			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	政治家の汚職① ・サブゲーム完全均衡			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	政治家の汚職② ・政治家のモラルハザード問題			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	政治家の資質① ・情報の非対称性下における均衡			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	政治家の資質② ・なぜ業績評価投票を行うのか			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	選挙運動			講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめ			授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		90	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確保するために、課題の出題を毎回行います。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点(授業への参加状況、課題の提出状況)40%、期末試験 60%</p>							

<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし</p>
<p>〔テキスト〕 『私たちと公共経済』、寺井公子・肥前洋一、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし） 『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』、浅古泰史、有斐閣（購入の必要なし）</p>
<p>〔参考書〕 特になし</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	教育経済学						
教員名	内田 雄貴						
講義コード	121571300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕 本講義では、個人が教育を受けるメリットや教育が社会・経済に与える影響について、経済学の観点から解説します。まず、人的資本論とシグナリング理論を説明し、「なぜ大学に通うのか」について考えます。次に、教育における政府の役割について検討します。そして、教育と所得格差の関係について考察します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・人的資本論とシグナリング理論を理解する。 ・教育における政府の役割を理解する。 ・教育と所得格差の関係を説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。		60	
第2回	人的資本論（1） ・教育の便益と費用			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	人的資本論（2） ・現在価値法			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	人的資本論（3） ・内部収益率法			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	人的資本論（4） ・内部収益率の計測			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	人的資本論（5） ・内部収益率と進学行動			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	シグナリング理論（1） ・完全な資本市場			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	シグナリング理論（2） ・シグナリング均衡の特質			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	シグナリング理論（3） ・不完全な資本市場			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	人的資本論とシグナリング理論の比較			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	教育と政府の役割 ・政府介入の根拠			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	教育と所得分配・社会階層（1） ・教育と所得格差			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	教育と所得分配・社会階層（2） ・教育と格差の親子間継承			【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	まとめ ・講義全体のまとめ			【予習】これまでの講義資料を熟読。 【復習】授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。		120	
<p>〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確保するために、課題の出題を毎回行います。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕							
〔課題等へのフィードバック方法〕							
<p>〔成績評価の方法〕 平常点(授業への参加状況、課題の提出状況)40%、期末試験60%</p>							

<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔テキスト〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『教育の経済学・入門 公共心の教育はなぜ必要か』、荒井一博、勁草書房（購入の必要なし） ・『教育を経済学で考える』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし） ・『教育の経済分析』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし） ・『概説 教育経済学』、松塚ゆかり、日本評論社（購入の必要なし）
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知します。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会保障論A						
教員名	内藤 朋枝						
講義コード	121573000	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 前期
<p>〔テーマ・概要〕 急速な少子化による保育所問題、就業環境の悪化にともなう失業や貧困問題など、社会福祉が対応すべき問題は多様化し、深刻化しています。ややもすれば感情論で語られがちな社会福祉の問題を、経済学の視点から解説を試みたいと思います。 社会経済状況や授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合がありますのでご注意ください。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 社会福祉の各制度の仕組みを理解している。 ② 社会福祉の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、福祉の市場において留意すべき点を明確に説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	社会政策の経済学的分析について 社会政策を如何に経済学的に分析するか学修する。 また関連する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	社会政策の経済学理論1 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	社会政策の経済学理論2 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第1章、第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	社政策の歴史と定義 貧困問題から始まる社会政策の歴史を概観し、基本的な仕組みを学修する。 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。 ※課題レポートについて説明する。			【予習】 Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポートのガイダンスを確認する。		120	
第6回	貧困とは何か 人は貧困に陥ったときどのような行動をとるのか。経済学的に検討する。 ※課題レポートの作成・提出			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	貧困問題と貧困対策 相対的貧困率の定義、貧困の状況、不利な家庭環境で育つ子どもへの支援策について学修する。			【予習】テキスト第5章、第3章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	最低賃金制度の仕組みと課題 最低賃金制度の仕組みや課題について学修する。 合わせて生活最低賃金の概念について学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	子育て支援 現在の少子化の現状について学修する 現金給付と現物給付の違い、少子化対策、子育て支援策・次世代支援策について学修する。			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	保育所問題 保育所の基本的仕組み、待機児童問題について学修する。次世代育成支援策			【予習】テキスト第10章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。到達度確認テストの対策を行う。		60	
第13回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第14回	到達度確認テストのフィードバックを行う			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直しておく。		60	
<p>〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。</p>							

<p>〔パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）〕</p>
<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 最終授業で、授業内に実施した到達度確認テスト等について解説します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト（50%）、課題レポート提出（30%）、平常点（授業への参加状況など）（20%）による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：マイクロ経済学、社会保障論 B、医療経済学、行動経済学など</p>
<p>〔テキスト〕 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂『社会政策一福祉と労働の経済学』 有斐閣アルマ、定価 2,700 円（本体 2,500 円）、ISBN 978-4-641-22058-4 購入の必要なし。</p>
<p>〔参考書〕 厚生労働省『厚生労働白書』各年版 阿部彩 『子どもの貧困』 岩波書店 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山 桂 『最低生活保障の実証分析』 有斐閣 鈴木亘『社会保障と財政の危機』 PHP 新書 アビジット,V. バナジー・エステル・デュフロ（著）、山田浩生（訳）『貧乏人の経済学』 みすず書房 その他、授業中に紹介する。購入の必要なし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	社会保障論B						
教員名	内藤 朋枝						
講義コード	121573100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>本講義では、社会保障の基礎理論、特に公的年金・保険制度の基本的な概念および仕組みと主な課題について、経済学的視点から解説します。保険の機能などの基礎理論を学んだ上で、現在私たちを取り巻く社会経済要因が、年金および他の保険制度にどのような影響を及ぼすのかを理解します。なお、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がありますので、ご注意ください。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)を達成するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 社会保障の機能、原理を説明できる。 ② 公的年金・保険制度がなぜ必要なのかを理解し、その仕組みを説明できる。 ③ 公的年金・保険制度に関する経済学的な理論を説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	社会政策はなぜ必要か 社会保障、社会政策とは何か、その歴史的背景について学修する。			【予習】テキスト序章、第1章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	社会政策の経済学 社会保障の経済学的位置づけについて学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	社会政策の経済学 社会政策をミクロ経済学および行動経済学の両面から学修する。 ※課題レポート執筆ガイダンス			【予習】 Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第5回	社会政策・年金保険の経済学 特に年金保険制度の経済学的位置づけについて学修し、なぜ「国民皆保険・皆年金」が必要であるかを経済学的に学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	社会保障の財源問題 政府がなぜ再分配政策を行うのか、再分配政策における国と地方自治体の役割について学修する。			【予習】テキスト第4章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。キーワードを説明できるようにする。		60	
第7回	少子・高齢化に取り組む 少子・高齢化にどのように取り組むのか事例を元に検討する。 ※課題レポートを提出する。			【予習】 Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		120	
第8回	公的年金制度の概念 公的年金制度の概念と必要性について学修する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	公的年金制度の仕組み 国民年金制度の被保険者の種類、給付と負担について学修する。 厚生年金保険、確定拠出年金の基本的な仕組みを学修する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第10回	公的年金制度が抱える問題 無年金者問題、公的年金の財源問題、国民年金の空洞化問題について学修する。			【予習】テキスト第14章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。			【予習】テキスト第13章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。			【予習】テキスト第13章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		120	
第13回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第14回	到達度確認テストのフィードバックを行う			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直しておく。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 最終授業で、授業内に実施したテスト等について解説します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト (50%)、課題レポート提出 (30%)、平常点 (授業への参加状況など) (20%) による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：マイクロ経済学、社会保障論 A、医療経済学、行動経済学など</p>
<p>〔テキスト〕 駒村 康平・山田 篤裕・四方 理人・田中 聡一郎・丸山 桂『社会政策 -- 福祉と労働の経済学』 有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22058-4、2500 円+税 購入の必要なし</p>
<p>〔参考書〕 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞社 駒村康平編『日本の年金』岩波新書 鈴木亘『年金は本当にもらえるのか』ちくま新書 厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい その他、授業中に紹介する 購入の必要なし</p>
<p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名	医療経済学						
教員名	内藤 朋枝						
講義コード	121573200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2026 後期
<p>〔テーマ・概要〕</p> <p>医療問題という点、経済学とは一見無関係に見えるが、医療保険制度、医療の供給体制など、経済学の視点が欠かせない。本講義では、上記の挙げられた医療問題に加え、健康を維持するための課題等についてもあわせて経済学の視点から解説する。社会経済状況や授業の進捗などによって、内容を一部変更する場合がある。</p>							
<p>〔科目内容を踏まえた到達目標の詳細〕</p> <p>DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。</p> <p>① 医療制度の仕組みを理解している。 ② 医療保険の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、医療に関わる理論、問題点を明確に説明できる。</p>							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて医療について学修するにあたり必要な理論を概観する。			【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。本講義期間中に、現在加入している医療保険を確認しておくこと。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。		60	
第2回	日本の医療制度 日本の医療制度の枠組みと、政策課題について学修する。			【予習】テキスト序章を読む。または Course Power 上の資料を読む。現在加入している医療保険を確認する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第3回	医療サービスにおける政府の介入 医療サービスにおける政府の介入を市場の失敗の視点から学修する。			【予習】テキスト第2章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第4回	公的医療保険制度 公的医療保険の問題について経済学的に学修する。			【予習】テキスト第7章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第5回	医療サービスにおける情報の非対称性 患者と医師の関係を経済学的に学修する。			【予習】テキスト第1章、第3章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第6回	医師の偏在とマッチング 医師の偏在についての資料を読み学修すると同時に、課題レポートにて要求されているポイントについて演習を行う。 ※課題レポートガイダンス			【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポート執筆のルールについて復習を行う。		60	
第7回	健康の経済学 健康を保持するための行動理論について、資料を元に学修する。 ※課題レポート作成・提出			【予習】テキスト第6章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第8回	混合診療1 混合診療禁止ルールを学修するにあたり混合診療の概念について学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第9回	混合診療2 混合診療禁止ルールの維持と撤廃について効率性と公平性の観点から学修する。			【予習】テキスト第9章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。		120	
第10回	病床規制 病床規制の根拠となっている供給者誘発需要について学修する。			【予習】テキスト第4章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第11回	社会的入院 社会的入院の背景と今後について学修する。			【予習】テキスト第5章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。		60	
第12回	終末期医療と遺族 患者と家族の行動を行動経済学の枠組みで検討する。			【予習】テキスト第11章を読む。または Course Power 上の資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。		120	
第13回	到達度確認テスト			【予習】テキストまたは Course Power 上の資料を読み到達度確認テストに備える 【復習】テストの復習を行う		120	
第14回	総復習 授業全体を復習する。 期末テストについてのガイダンス、例題の演習を行う。			【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。		60	
<p>〔授業の方法〕</p> <p>授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。 到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。</p>							
〔パソコンに関する受講者への指示(特別なソフトウェアのインストール等)〕							

<p>〔課題等へのフィードバック方法〕 最終授業で、授業内に実施したテスト等について解説します。</p>
<p>〔成績評価の方法〕 到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 到達度確認テスト (50%)、課題レポート提出 (30%)、平常点 (授業への参加状況など) (20%) による総合評価。</p>
<p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：ミクロ経済学、社会保障論 A、B、行動経済学など</p>
<p>〔テキスト〕 河川洋行 『医療の経済学【第 4 版】』 日本評論社 2500 円 購入の必要なし。</p>
<p>〔参考書〕 厚生労働省『厚生労働白書』各年版 健康保険組合連合会『図表でみる医療保障』（各年版）、ぎょうせい 大竹文雄・平井哲 『医療現場の行動経済学』 東洋経済新報社 津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』 その他、授業内で紹介する。購入の必要なし。</p>
<p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。</p>
<p>〔特記事項〕</p>

講義名							
教員名							
講義コード		単位数		配当年次		開講時期	
[テーマ・概要]							
[科目内容を踏まえた到達目標の詳細]							
[授業の計画と準備学修]							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の 目安（分）	
第1回							
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
[授業の方法]							
[パソコンに関する受講者への指示（特別なソフトウェアのインストール等）]							
[課題等へのフィードバック方法]							
[成績評価の方法]							

[成績評価の基準]
[必要な予備知識／先修科目／関連科目]
[テキスト]
[参考書]
[質問・相談方法等 (オフィス・アワー)]
[特記事項]